

くものいと No.29

KU MO NO ITO

2001 January 31

関西クモ研究会
大阪府茨木市

くものいと

No.29, Jan.2001

目次

特集 採集に行こう！—私のとっておき、関西のフィールド紹介

- | | |
|-----------------------------------|-------|
| 1 京都府 静原と大原 | 吉田 真 |
| 3 大阪府 豊能郡能勢町 | 山野忠清 |
| 4 和歌山県 和歌山県内クモ類の観察・採集地案内 | 東條 清 |
| 6 滋賀県 滋賀県の好採集地 | 西川喜朗 |
| 8 special 沖縄編 沖縄島南部のクモ採集地 | 佐々木健志 |
| 11 ミニ特集 20世紀のクモ本
フィールド紹介③ | |
| 14 近いのがメリット「皇子が丘公園」 | 榎元とも子 |
| 同定指南Ⅲ | |
| 16 ワシグモ科 <i>Gnaphosidae</i> (その2) | 加村隆英 |
| 海外の研究トレンド (3) | |
| 20 コモリグモの脚の飾りの役割 | 榎元敏也 |
| クモリスト | |
| 22 大原と修学院のクモ | 吉田 真 |
| 26 兵庫県 (数カ所) の採集記録 | 田中穂積 |
| 35 私の蜘蛛採集記録 (奈良県内) | 赤松史憲 |
| 関西クモ研究会採集会報告 | |
| 40 第3回姫路市青山採集会標本目録 | 清水裕行 |
| 46 関西クモ研究会奈良市内採集会の報告 | 坂口佳史 |
| 21世紀の抱負 | |
| 51 身近なクモに関する話3題 | 山元一幸 |
| 55 新世紀を迎えて決意したこと
《寄稿》 | 清水裕行 |
| 58 蜘蛛(クモ)が付く地名があった | 須賀瑛文 |
| 60 ゲホウグモの網採り奮戦記 | 船曳和代 |
| 66 2000年秋のゴケグモ情報 | 清水裕行 |
| 72 トピックTOPICトピック クモの生活～マネキグモの不思議～ | 西野真由子 |
| 74 会員ニュース | |
| 75 ゆうすけ美術館 | |
| 76 関西クモ研究会則 | |
| 78 スズミグモ調査のお願い/会費納入のお願い | |
| 79 編集後記 | |

特集

採集に行こう!

私のとっておき、関西のフィールド紹介



21世紀最初の特集は、みんな大好き「採集に行こう」です。関西にはクモの採集によい場所がたくさんあります。みなさんそれぞれにお気に入りの場所、秘密の場所を持っていらっしゃるようです。そこで、今回は3人の方々にとっておきのクモ採集場所をご紹介します。

また、ゲストの佐々木健志さんには、この夏、蜘蛛学会が開催される沖縄のフィールドをご紹介します。学会に参加される方は参考にしてください。

京都府

静原と大原

吉田 真

静原(京都市左京区静市静原町)は、京都市北部にある山間の集落である。そこから江文峠を東に越えると、三千院や寂光院で有名な大原に至る。静原から西に山越えすると、鞍馬に至る。観光地である鞍馬や大原に比べて、静原は訪れる人も少なく、ひっそりとした佇まいの山村である。山々の間を鴨川の支流である静原川が流れ、水田や畑も多く、秋にはコスモスが咲き乱れる美しいところである。

山々に囲まれ、休耕田や畑も多く、川が流れている。こう書けば、コレクター諸氏はいい場所だと思いに違いない。その通り、オオトリノフンダマシ、アカイロトリノフンダマシ、シロオビトリノフンダマシなどのトリノフンダマシ類、コガネグモ、ナガコガネグモ、チュウガタコガネグモなどのコガネグモ類、メガネドヨウグモ、タニマノドヨウグモ、ヤマジドヨウグモ、オオシロカネグモなど川辺に水平円網を張るクモ各種。ほとんど何でも揃っている。ご存じのように、小生はコレクターとしては三流どころか五流・六流なので、珍品はほとんど採集していないが、一流の人がちゃんと探せばムツトゲイセキグモやカトウツケオグモなどの珍品も見つかるのではないかと思っている。

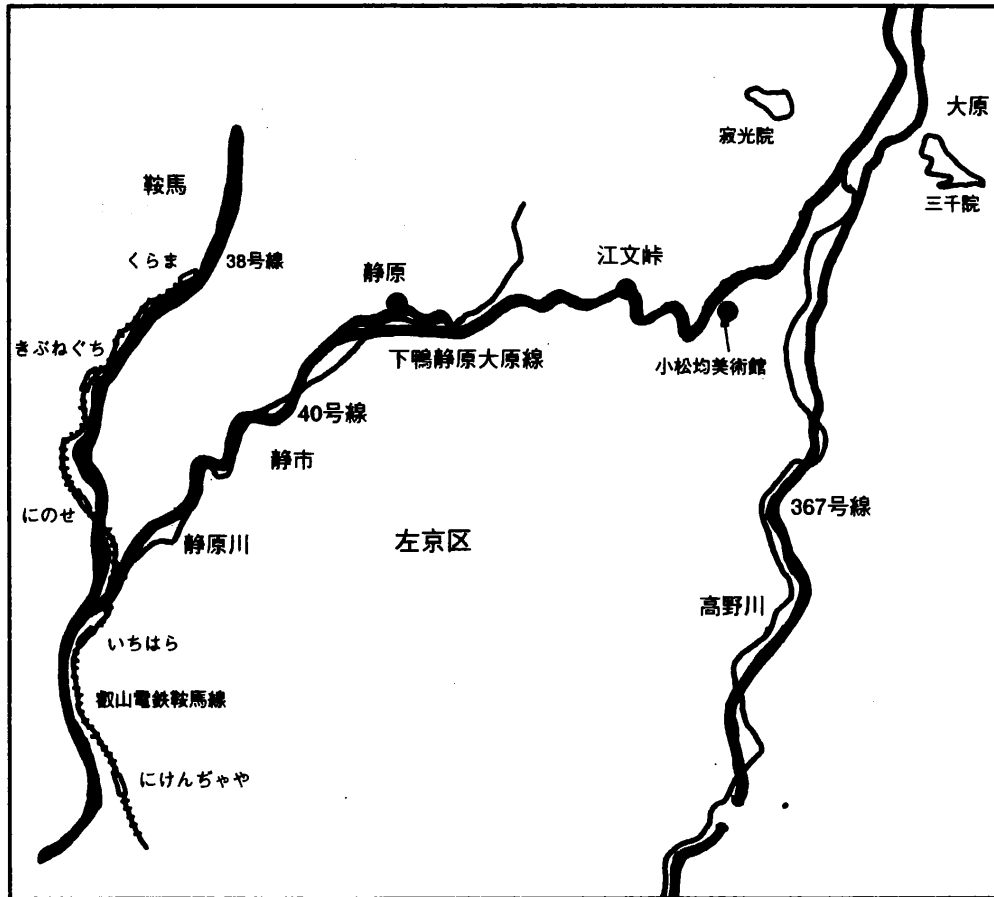
幸いなことにというとお叱りを受けそうだが、交通の便は悪い。バスは通っているが、どこのバスか、どこが始発か、全然知らない。たぶん始発は京都駅か、出町柳であろう。

私はいつも、愛車サニーで静原に行く。運転距離16万キロを超えたポンコツで、オートマでなく今時ミッション。エンジン以外はすべてマニュアルというとんでもない代物である(エンジンもマニュアルなら、自転車になってしまう!)

大原(京都市左京区大原)では、ムツトゲイセキグモを採集した。野村別れから江文峠の方に歩いて10分ほどのところに、小松均美術館がある。このそばの休耕田が素晴らしい場所で、この夏何度か採集に訪れた。山と川に囲まれたこの場所ですつうと

うとと居眠りをしていたら、バキバキという音がして目が覚めた。藪の中から現れたのは見たこともないほど大きなクサガメだった。ここの主であろう。ひょっとすると私よりもずっと年上かもしれないこのカメは、賢そうな目で私を見上げ、藪の中に消えていった。この場所で私は、ムツトゲイセキグモ、オオトリノフンダマシ、アカイロトリノフンダマシ、シロオビトリノフンダマシなど数十種を採集した。ここは大原井手町のバス停から30分ほど歩けば行けると思う。

大原・静原マップ



大原へは京都駅から京都バス（17番・18番）が出ています。このバスはいずれも八瀬遊園経由で367号線を通っていきます。

大阪府

豊能郡能勢町

山野忠清

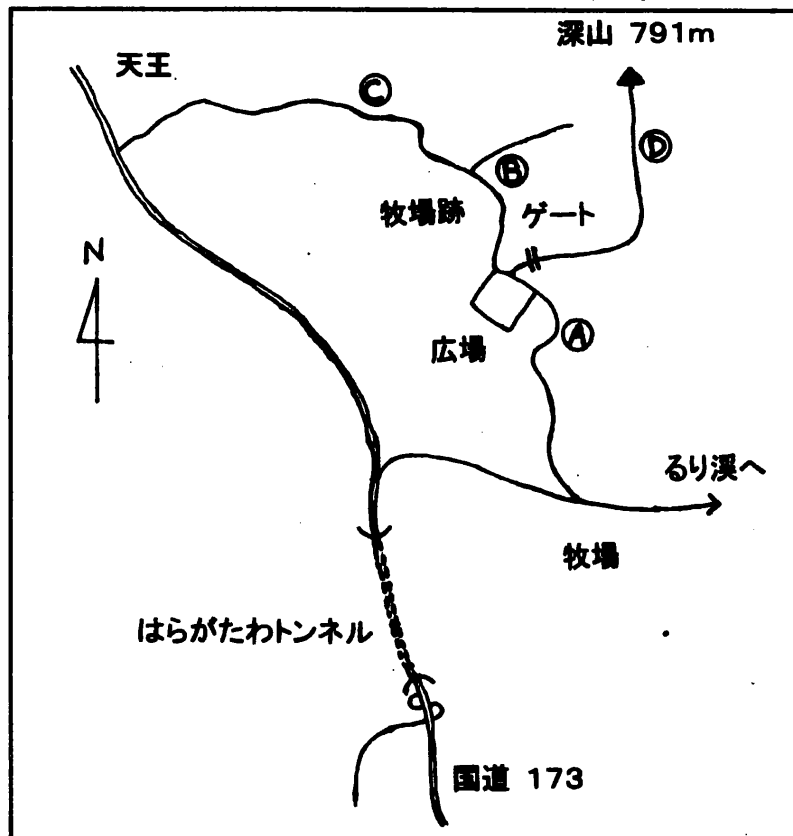
能勢は大阪では自然度の高い地点である。コナラを主体とした雑木林で。リターも豊富。ササ原、小川もある。まだ本格的にクモ類の採集は行っていないが、季節をおって出かけた場所である。

■場所：大阪府豊能郡能勢町深山

■交通：車が便利。阪神高速池田線、池田木部出口より国道173号線を篠山方面へ。はらがたわトンネルを出て、るり溪方面へ右折し、牧場横を左折する。車は広場まで。木部出口より約50分

■地図：1：25,000福住、埴生

■宿泊：能勢町山辺に「かんぼの宿」がある。



A、Bコナラを主とした雑木林。C小川沿いの雑木林。D雑木林とササ原。

和歌山県

和歌山県内クモ類の観察・採集地案内

東條 清

①友が島 (和歌山市)

【観察・採集地】

深蛇池湿地帯 (県指定天然記念物植物群落) 及び蒲浦海岸

■交通: 南海加太線加太駅下車⇒加太港乗船場⇒船⇒友が島棧橋⇒深蛇池

■宿泊所: 加太港周辺の観光旅館

②高野山 (伊都郡高野町)

【観察・採集地】

奥の院裏山道⇒楊柳山・摩尼山 (コケオニグモの生息地)

コウヤマキの原生林内 (営林署の許可必要)

■交通: 南海高野線の極楽橋駅⇒ケーブルカー⇒高野山駅

■宿泊所: 各宿坊(寺院)

③生石山 (海草郡野上町・有田郡金屋町・清水町にまたがる)

【観察・採集地】

生石山ススキ高原及びその周辺 (関西一のススキ高原)

■交通: JRきのくに線海南駅下車⇒生石山頂 (車で約1時間)

■宿泊所: 国民宿舎生石山荘

④神島 (田辺市)

【観察・採集地】

周囲約1kmの小島 (暖地性植物群落があり国の天然記念物となっている) ので田辺市教育委員会の許可が必要)

■交通: JRきのくに線紀伊田辺駅下車⇒船⇒神島

■宿泊所: 田辺市内の観光旅館または白浜温泉観光ホテル

⑤江須崎 (西牟婁郡すさみ町)

【観察・採集地】

枯木灘に突出した半島状の島で、海岸から約10mの橋で本土とこの原始林無人島が結ばれている。(暖地性植物群落があり国の天然記念物になっているのですさみ町教育委員会の許可が必要)

■交通: JRきのくに線すさみ駅下車⇒バスで江須崎停留所 (約35分)

■宿泊所: 串本町内観光旅館

⑥高田グリーンランド (新宮市)

【観察・採集地】

高田グリーンランドおよび高田川周辺

■交通：JRきのくに線新宮駅から熊野交通バスで約30分

■宿泊所：高田グリーンランド雲取温泉

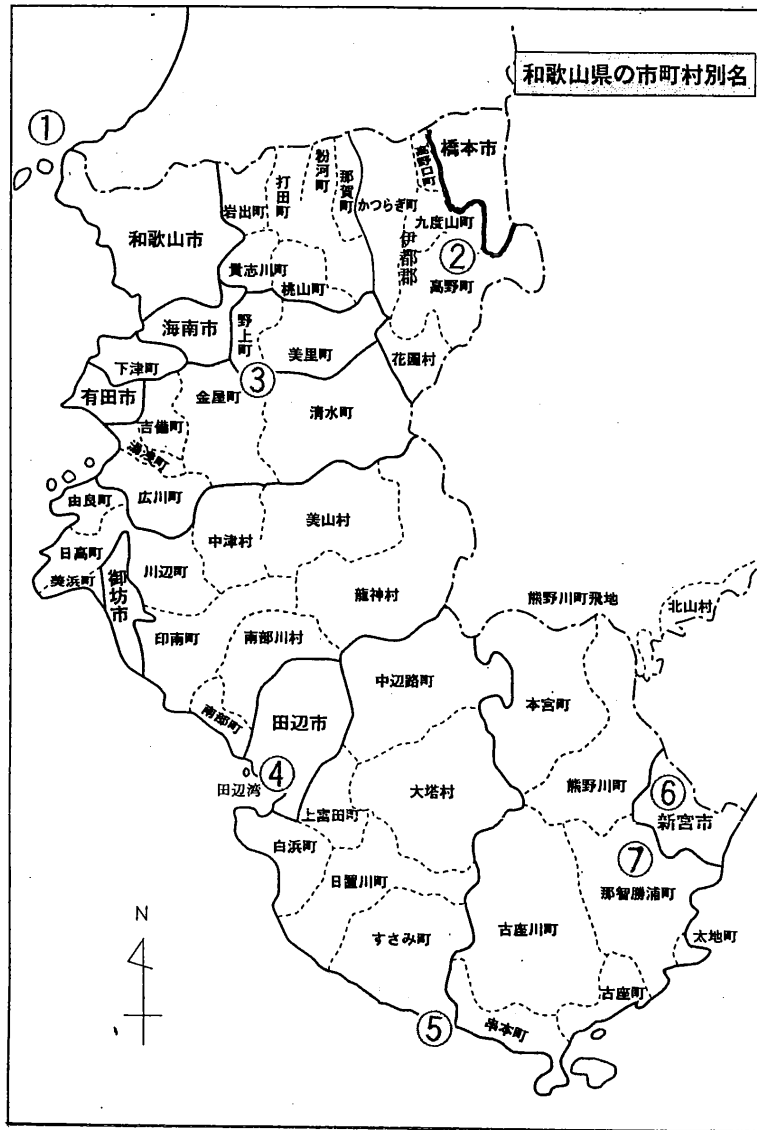
⑦那智山 (東牟婁郡那智勝浦町)

【観察・採集地】

那智高原および那智の滝周辺の原生林

■交通：JRきのくに線紀伊勝浦駅からバスで熊野那智大社⇒那智の滝⇒那智高原

■宿泊所：紀伊勝浦駅周辺の観光ホテル



滋賀県

滋賀県的好採集地

西川喜朗

編集係の榎元さんから、滋賀県内のいい採集地を紹介してほしい、との依頼があり、引き受けはしたものの、地図を眺めていると、もう一度行ってみたい所はいっぱいある。今回は、以前の記憶や野帳からそれらの一部をクモ屋さん用に紹介したい。

余呉湖 (よごこ) 滋賀県伊香郡余呉町。標高、135m~280m。

【琵琶湖の北にある小さな湖のまわり】

湖岸に生えているススキやヨシのような草の間に、ナカムラオニグモが非常に多くいた(1983年8月12日)。湖岸には水田や畑があり、草原性のクモの採集によさそうである。東側の大岩山へ登れば、標高が低いにもかかわらずブナ林があり、それなりに面白そうなところであった。気楽にのんびりと山ぎわの水田地帯の調査に行ってみよう地域である。

■交通：JR北陸本線「余呉」駅から南へそして東へ、約2キロ。

■2.5万分の1地形図：「木之本」

マキノ (まきの) 滋賀県高島郡マキノ町。標高、85m~90m。

【琵琶湖の北西、マキノ駅の南の河辺林】

マキノ駅の南西方の知内川の堤防や川原には、ヤマシロオニグモ、クサグモ、カラスゴミグモ、アシナガグモ類やコモリグモ類が多く、カバキコマチグモもよく見られた。東に下って湿地の河辺林と水田の用水路のヨシ(?)では、ナカムラオニグモが多く見られた(2000年6月18日)。

■交通：JR湖西線「マキノ」駅から南西、東、北へ、一周約1キロ。駅前に無料駐車場あり。

■2.5万分の1地形図：「海津」

八淵の滝 (やつぶちのたき) 滋賀県高島郡高島町。標高、約500m~650m。

【比良山の武奈ヶ嶽(標高1214m)の北東部】

ガリバー青少年旅行村から林の中を通り、鴨川の上流(八池谷)の八淵の滝に至るコース。八淵の滝は名瀑100選のひとつ。

旅行村から林のなかを一時間ほど行くと、川沿いの道になり、変化に富んだ滝を4つほど眺めたり、巻いたりして行くと開けた川原の大摺鉢、小摺鉢の淵に出る。休憩するのに都合の良い場所だ。周りの自然林と冷たい沢の水がすばらしい。さらに川沿いに20分ほど急な岩場を登ると屏風滝と貴船の滝(落差50メートル)にたどり着く。元気な人は比良ロッジまで(90分)行ってもよいが、このあたりで折り返したほうが良い。

少し薄暗い山道があるのと、斜面を横切る道を歩くのに気をつかうが、自然林や滝が楽しめる「おすすめハイキングコース」である。

■交通：ガリバー青少年旅行村まで、近江高島からバス 26分、土日祝日のみ。

■2.5万分の1 地形図：「北小松」

坊村（ぼうむら） 滋賀県大津市葛川坊村町。標高、300m～500m。

【比良山の西側】

安曇川中流の坊村の「あけぼの橋」の東に、旅館「比良山荘」があり、西側からの比良山登山口のひとつである。ここから比良山へは登ったことがないが、東の明王谷から牛コバ、あるいはワサビ谷方面は手軽な採集コースである。植林も多いが雑木もよく残っている、片道1時間 30分ぐらいのコースである。山道に入りかけたところでハラビロミドリオニグモが採れた（1977年4月）。また、安曇川の川原の礫のあいだにはカワラメキリグモが多く見られた（1976年7月16日）。5月の草原には多数のウスバシロチョウが飛び交うところでもある..

■旅館「比良山荘」：一泊二食付き15,000～20,000円

「石楠花山荘」：一泊二食付き8,000～10,000円、（2キロ北の梅の木）

■交通：出町柳から京都バス約1時間、堅田から江若バス約 54分。

■2.5万分の1 地形図：「花脊」,「比良山」

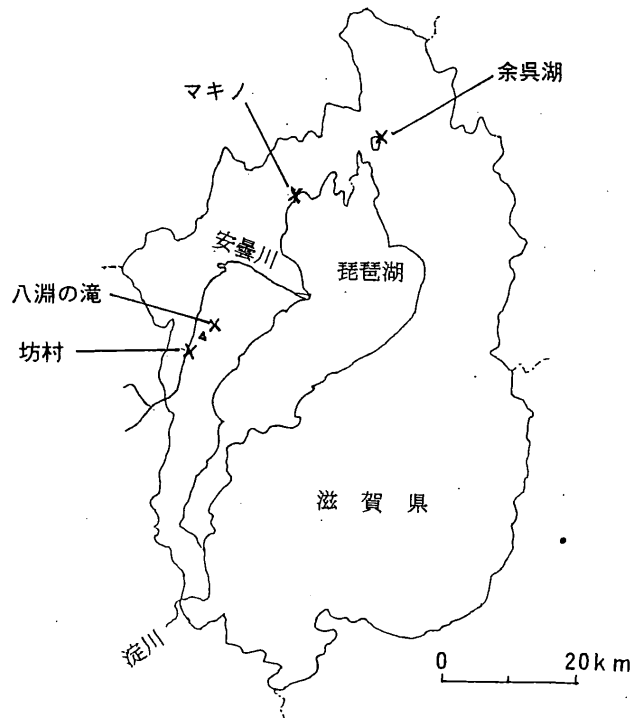


図1. 滋賀県の好採集地

Special

沖繩編

2001年夏、クモ学会は沖繩で開催されます。せっかく沖繩まで行くのだから、できればクモ採集にも行ってみたいですね。そこで、佐々木さんにおすすめの場所を教えてくださいました。どうぞ参考にしてください。

沖繩島南部のクモ採集地

佐々木 健志

沖繩県内には161もの島があります。これらの島々は、その成り立ちや大きさ、地質、気候、植生などの自然環境が少しずつ異なり、島ごとに特徴あるクモ相を形成しています。ここでは、2001年のクモ学会大会の予定地である那覇市内から比較的簡単に行ける沖繩島南部の採集地をご紹介します。

沖繩島南部の概要

沖繩島の地形や生物相は、島の北部(石川市・金武町以北)と南部で大きく異なります。北部は、古生層の古い地層からなり標高400~500mほどの起伏の激しい山地が連なり、国頭マージという真っ赤な酸性土壤にスダジイの森林が広がっています。有名なヤンバルクイナやヤンバルテナゴコガネなど沖繩島のほとんどの希少動物がこの森に生息しています。

一方、南部は標高200m以下の平坦な地形で、泥岩やサンゴ石灰岩を基盤とする比較的新しい地層から成り、表土はジャーガルと呼ばれる灰色のアルカリ土壌が多く、ガジュマルやアコウ、オオバギなどの植物が小規模な林を形成しています。また、この地域は鍾乳洞が多く、戦時中は避難壕や病院壕などとして利用されていた洞内には、リュウキュウコキクガシラコウモリやユビナガコウモリのほか、オヒキコシビロザトウムシやウデナガサワダムシ、ジャバラグモ、オキナワマシラグモなどの洞窟性種が生息しています。

摩文仁の丘やひめゆりの塔などの戦跡が多く残る南部は、先の沖繩戦で激戦地となった地域で、戦争によって自然環境も大きく破壊されました。戦後も宅地やサトウキビ畑などの大規模な耕作地が造成され、残っていた林もほとんど姿を消しました。このため、南部でクモが採集できるような自然が残されているのは、海岸部の防潮林や開発が困難な段丘斜面、そして沖繩で神様が宿る神聖な場所として守られてきた御嶽(ウタキ)や古い城跡の周りに残された林などです。

採集地の紹介

(1) 斎場御嶽(セーファウタキ)とその周辺。

■交通：那覇バスターミナルから38番に乗車、体育センター入口下車、徒歩10分。

那覇市内からバスで約1時間。

■宿泊：ホテルサンライズ知念(TEL:098-948-1139)など。

■備考：海岸も近く周辺には採集に適した所が多いので、宿泊しての採集がおすすめ。

知念村久手堅部落の山手に広がる斎場御嶽（セーファウタキ）は、昨年の暮れに世界遺産に登録された場所で、琉球誕生の地として沖縄で最も有名な聖地です。御嶽の周辺には広く自然林が残されており、クロイトカゲモドキ（県指定天然記念物）などの珍しい動物も生息しています。周囲は琉球石灰岩が露出した凹凸の多い複雑な地形で、ガジュマルやアコウ、アカギ、シバニッケイ、オオバギ、クワズイモなどの植物が生い茂り鬱そうとした林になっています。

ここは特にチョウの多い場所としても有名で、本土からも昆虫採集者がよく訪れます。参道の奥には、沖縄戦で打ち込まれた砲弾の窪みが小さな池となって残っており（通称、砲弾池）、オキナワアオガエルやヒメアマガエル、シリケンイモリ、トンボなどの繁殖地となっているほか、これらのカエルを食べにハブやヒメハブ（南部では希）、アカマタなどのヘビ類も多く現れます。

参道や御嶽を取り巻く林内には、サラグモの仲間やオオジョロウグモ、ヘリジロオニグモ、ヤマシロオニグモ、チブサトゲグモ、スズミグモ、ミナミノシマゴミグモ、ハマウズグモ、ミナミユレイグモ、オナガグモなどの造網性種の他、林床には様々なハエトリグモやコモリグモなどが見られ、崖地にはオキナワキムラグモやオキナワトタテグモも生息しています。また、大きな木の樹幹にはキノボリトタテグモも見られます。さらに、斎場御嶽の前面に広がる東シナ海の海岸部には、ヤマトウシオグモやイソタナグモの一種、トゲゴミグモ、イソハエトリなどの海浜性のクモも見られます。

この他、斎場御嶽の近くには知念城跡や玉城城跡などもあり、周辺には自然林があり好適な採集地となっています。

(2) 末吉公園

■交通：那覇バスターミナルから12番に乗車、那覇市立病院前下車、徒歩5分。

那覇市内からバスで約30分、大会会場（メルパルク沖縄）から徒歩約30分。

■宿泊：那覇市内各ホテル

■備考：都心にある公園ですが、ハブが生息していますので注意してください。

那覇市内の北端に位置する末吉公園は、都心部にありながらまとまった林や川のある豊かな自然環境が残されている場所です。小高い丘の上には国の史跡の末吉宮跡があり、現在社の復元作業が行われています。残念ながら、10年ほど前に公園整備で林の一部が伐採され芝地になってしまいましたが、北側の小高い丘の斜面にはまだかなりの林や草地が残されており、野鳥をはじめ昆虫やクモも多数生息しています。

公園内には遊歩道が整備されているため、道沿いで手軽に採集することができます。この林も、琉球石灰岩土壌から成り、ガジュマルやアカギ、アコウ、シマグワ、アカメガシワ、オオバギなどの樹木が生育している他、モクマオウやソウシジュ、ヤシ類などの外来樹木も多数植栽されており、クモにとっても変化に富んだユニークな生息環境を提供しています。

夏の林内にはオオジョロウグモやスズミグモが多く、他にオニグモ、ヤマシロオニグモ、チブサトゲグモ、コガタコガネグモ、ナガマルコガネグモ、ミナミノシマゴミ

グモ、ヤサガタアシナガグモ、チュウガタシロガネグモ、アシプトヒメグモ、シロガネイソウロウグモ、チリイソウロウグモ、リュウキュウミドリヒメグモ、オキナワウズグモ、ミナミウズグモ、チビアカサラグモ、オナガグモ、カマスグモ、ミナミオダカグモ、コハナグモ、シマササグモ、ミナミハヤテグモ、タテスジハエトリ、タテスジハリゲコモリグモなどが記録されています。

また、遊歩道沿いの赤土が露出した斜面には、オキナワキムラグモやオキナワトタテグモも見られます。また、4月から9月にかけては、オキナワマドポタルやオキナワスジポタル、クロイワポタルなどの陸棲ホタルの成虫が多数発生します（幼虫は一年中見られます）。

採集での注意

夏場の採集では、できるだけ肌を露出せず十分に水分を補給しながら採集することです。日陰の少ない南部での採集は、短時間の採集でも思った以上に脱水や日焼けが進むことがあり、下手をすると日射病で倒れたり火傷で病院行きとなります。

また、おもな採集地となる御嶽や城跡は、地元の人たちにとって信仰上大変重要な場所ですので、採集に際しては周辺を荒らさないよう、また住民に迷惑をかけないよう十分に気を付けて下さい。特に本土から来る昆虫採集者の中には御嶽内を踏み荒らしたり民家の庭先に無断で入るなどして住民とのトラブルが生じています。

南部での採集にあたっては、特にハブに対する注意も必要です。南部は那覇市を抱え急激に都市化が進んでいる地域で、開発で生息地を追われたハブがわずかに残された林などに高密度で見られることもあります。

また、ハブは冬には活動が鈍るものの冬眠することはありませんので、夏場の採集はもちろんのこと、冬の採集でも注意が必要です。できれば、藪や林などに入る時には長靴などを着用することをお勧めします。

関連情報のホームページ

沖縄宿泊ガイド <http://www.oah-net.or.jp/>
沖縄のバス路線ガイド <http://www.ryukyu.ne.jp/~naka/>
斎場御嶽のある知念村のHP <http://www.vill.chinen.okinawa.jp/>

≡ 特集 ≡ 20世紀のクモ本

この企画を考えたとき、毎日膨大に出版されている書籍の中で、クモに関する本はどちらかというとマイナーな存在で、数も少ないだろうと考えていました。ところが、さすがに20世紀、100年間で見ると、かなりのクモ本が出版されていたことが分かりました。(書籍の出版自体が20世紀に集中しているので当然といえば当然なのですが)

吉田編集長がクモネットで、「ご存じのクモ本を教えてください」と伺ったところ、たくさんのお返事をいただき、本の種類もどんどん増えていきました。中には「広辞苑」にもクモの項目が載っているぞ、というご意見もありました。クモネットのみなさん、本当にありがとうございました。すべてを網羅することが理想だとは思いますが、誌面には限りがありますので、今回は編集担当者の独断で選んだ87冊をご紹介します。研究者でなくても楽しく読め、クモに関する知識が得られる本を基準にしました。みなさんもよろしければ、ご自分のクモ本ベストをお作りになってみてはいかがでしょうか。

- | | | | |
|----|--------------|-------------------------|-----|
| 1 | 鳥海山麓の真正蜘蛛類たち | 阿部茂 (1996) 著者自刊 | 一般書 |
| 2 | 自然観察記 | 植村利夫 (1949) 陸水社 | 一般書 |
| 3 | クモのはなし I II | 梅谷献二・加藤輝代子 (1989) 技報堂出版 | 一般書 |
| 4 | ベッコウバチのクモがり | 遠藤彰 (1982) 岩波書店 | 一般書 |
| 5 | クモの糸のミステリー | 大崎茂芳 (2000) 中公新書 | 一般書 |
| 6 | 蜘蛛の世界 | 大利昌久 (1967) 著者自刊 | 一般書 |
| 7 | 網を張るクモ 観察事典 | 小田英智・難波由城雄 (1999) 偕成社 | 一般書 |
| 8 | クモの生活 | 萱嶋泉 (1964) さえら書房 | 一般書 |
| 9 | アシダカグモ | 萱嶋泉 (1987) 誠文堂新光社 | 一般書 |
| 10 | クモの合戦 | 川名興・斎藤慎一郎 (1985) 未来社 | 一般書 |
| 11 | キムラグモ | 菊屋奈良義 (1993) 八坂書房 | 一般書 |
| 12 | クモのひみつ | 栗林慧 (1981) あかね書房 | 一般書 |
| 13 | クモの糸のしかけ | 栗林慧・沢近十九一 (1980) 国土社 | 一般書 |
| 14 | クモ合戦の文化論 | 斎藤慎一郎 (1984) 大日本図書 | 一般書 |
| 15 | クモ | 佐藤有恒・池田博明 (1997) 誠文堂新光社 | 一般書 |
| 16 | クモの生活 | 関口晃一 (1952) 同和春秋社 | 一般書 |
| 17 | ジョロウグモ | 千国安之輔 (1977) 主婦と生活社 | 一般書 |
| 18 | クモの親と子 | 千国安之輔 (1980) 偕成社 | 一般書 |
| 19 | クモたちの狩り(上、下) | 千国安之輔 (1982) 偕成社 | 一般書 |
| 20 | クモの一生 | 千国安之輔 (1983) 偕成社 | 一般書 |
| 21 | クモの生活 | 常木勝次 (1967) 千代田書房 | 一般書 |
| 22 | タランチュラの世界 | 富水明 (1996) マリン企画 | 一般書 |
| 23 | クモのふるまい | 中平清 (1983) 著者自刊 | 一般書 |
| 24 | 続クモのふるまい | 中平清 (1992) 著者自刊 | 一般書 |
| 25 | 私の博物誌 | 中平清 (1999) 土佐倶楽部社 | 一般書 |
| 26 | ジョロウグモ | 難波由城雄 (1986) 偕成社 | 一般書 |
| 27 | 蜘蛛百態 | 錦三郎 (1964) 赤光発行所 | 一般書 |

28	飛行蜘蛛	錦三郎 (1972) 丸ノ内出版	一般書
29	空を飛ぶクモ	錦三郎 (1974) 学習研究社	一般書
30	雪迎え	錦三郎 (1975) 三省堂	一般書
31	クモの超能力	錦三郎 (1986) 講談社	一般書
32	くも合戦-こがねぐもの一生-	花岡大学 (1973) 文研出版	一般書
33	"ファーブル昆虫記9 (旧版17・18)"	ファーブル 岩波文庫	一般書
34	クモが好き	福島彬人 (1999) 無明社出版	一般書
35	クモの習性	細野善熙 (1974) 信濃教育会出版部	一般書
36	クモの話 よみもの動物記	八木沼健夫 (1969) 北隆館	一般書
37	クモの観察と研究	八木沼健夫 (1975) ニューサイエンス社	一般書
38	蜘蛛の研究	湯原清次 (1931) 総合科学出版協会	一般書
39	クモの不思議	吉倉眞 (1982) 岩波書店	一般書
40	スパイダーウォーズ	吉田真 (1990) 新草出版	一般書
41	蜘蛛の生活	岸田久吉 (?) アルス社	一般書
42	虫をたおすキノコ	吉見昭一 (1984) 大日本図書	一般書
43	ラボ土曜講座5 空を飛ぶクモの話	錦三郎 (1978) そしえて	一般書
44	写真集 白竜湖・大谷地 泥炭地の農と自然	錦三郎、錦厚 (1991) 著者自刊	一般書
45	沖縄の昆虫	栗林慧 (1973) 学習研究社	一般書
46	くもSpiders	高村喜美子 (1972) 鶴書房盛光社	一般書
47	全集日本動物誌18 クモの習性	細野 (1983) 講談社	一般書
48	蜘蛛の観察	山本隆 (1943) 朝陽社	一般書
49	理科学習資料 蜘蛛の観察	小野武比古 著者自刊	一般書
50	太郎の自然研究 クモの生活	常木勝次 (1947) 札幌講談社	一般書
51	青森県のクモたち	水木隆治 (1990) 著者自刊	一般書
52	南九州の小さな動物	石野田辰夫 (1989) 著者自刊	一般書
53	沖縄の自然百科10 空から来た冒険者-クモ	千木良芳範、佐々木健志 (1985) 沖縄出版	一般書
54	クモの糸のしかけ	沢近十九一ほか (1980) 国土社	一般書
55	暗闇に生きる動物たち	入江照雄 (1997) 熊本生物研究所	一般書
56	クモの世界を探る	八木沼健夫 (1956) 朝日新聞社	一般書
57	お姫さまくもに会う	秋山亜由子 (1999) 福音館書店	絵本
58	くものすづくり	大下亮・萱島泉 (1980) フレーベル館	絵本
59	クモの糸	岡野薫子・岩淵慶造 (1972) 大日本図書	絵本
60	こがねぐも	甲斐信枝 (1982) 福音館書店	絵本
61	もすけ	かみやしん (1992) くもん出版	絵本
62	くも	新宮晋 (1979) 文化出版局	絵本
63	くものいえ	得田之久 (1975) 童心社	絵本
64	こがねぐも	八木沼健夫・浜田弘康 (1979) ポプラ社	絵本
65	すをはるくも	佐藤有恒 (1985) 誠文堂新光社	絵本

- | | | | |
|----|------------------|-----------------------------|-------|
| 66 | クモははらぺこ | 太田英博・中島美弥 (1993) 大日本図書 | 絵本 |
| 67 | 月夜のかりうど | 松岡洋子 北隆館 | 絵本 |
| 68 | 大日本原色蜘蛛類図説 上巻 | 小松栄 (1936) 蘭山会 | 図鑑 |
| 69 | 原色蜘蛛類図説 | 斎藤三郎 (1959) 北隆館 | 図鑑 |
| 70 | クモ (講談社カラー科学大図鑑) | 新海栄一・栗原輝代子 (1981) 講談社 | 図鑑 |
| 71 | フィールド図鑑『クモ』 | 新海栄一・高野伸二 (1984) 東海大学出版会 | 図鑑 |
| 72 | クモ基本50 | 新海栄一・高野伸二 (1987) 森林書房 | 図鑑 |
| 73 | 写真 日本クモ類図鑑 | 千国安之輔 (1989) 偕成社 | 図鑑 |
| 74 | 学研の図鑑 クモ | 中平清(監) 松本誠治ほか著 (1977) 学習研究社 | 図鑑 |
| 75 | 原色日本クモ類大図鑑 | 八木沼健夫 (1960) 保育社 | 図鑑 |
| 76 | 原色日本クモ類図鑑 | 八木沼健夫 (1986) 保育社 | 図鑑 |
| 77 | クモの不思議な生活 | チナリー, M. (1997) 晶文社 | 翻訳・一般 |
| 78 | クモー8本あしの狩人 | ネイラー, P. (1978) 文理 | 翻訳・一般 |
| 79 | ふしぎいっぱいクモ | パーソンズ (1997) ブックローン出版 | 翻訳・一般 |
| 80 | クモ・ウォッチング | ヒルヤード (1995) 平凡社 | 翻訳・一般 |
| 81 | くも | ベイソン, L. (1974) 小学館 | 翻訳・一般 |
| 82 | アラネアーあるクモのぼうけん | ワグナー, J. (1979) 岩波書店 | 翻訳・一般 |
| 83 | くもさんおへんじどうしたの | エリック・カール (1985) 偕成社 | 翻訳・絵本 |
| 84 | くもの巣とり | 征矢清 (1984) 大日本図書 | 童話 |
| 85 | くものぼうけん | アーカスト, J.C. (1968) | 翻訳・童話 |
| 86 | ヘレン、ようこそどうぶつえんへ | グレアム, M.B. トモ企画 | 翻訳・童話 |
| 87 | シャーロットのおくりもの | ホワイト, W.B. 法政大学出版 | 翻訳・童話 |



フィールド紹介 ③

近いのがメリット「皇子が丘公園」

【滋賀県大津市皇子が丘1丁目】

榎元とも子

皇子が丘公園は、我が家から歩いて7～8分のところにある市営の公園です。ここは比叡山麓の丘陵地に作られた公園で、少し登れば琵琶湖が一望できます。公園内には体育館、運動場、温水プール、屋外プール、子ども用のフィールドアスレチックなどがあり、休日にはバーベキューなどを楽しむ家族連れでにぎわいます。全くの人工的な公園ですが、後ろに比叡山がひかえているせいか、鳥や昆虫の種類も多いように思います。

とはいえ、公園という性質上、毎年どこかが整備(?)され、どんどんほったらかしの場所(木が茂り放題、草ぼうぼうというところ)がなくなってきています。一昨年は公園の端を流れていた小川が河川改修され、明るく、白々しい誰も遊ばない親水公園になりました。おかげで老木の桜並木とマネキグモやオナガグモがたくさんいた薄暗い茂みがなくなってしまいました。

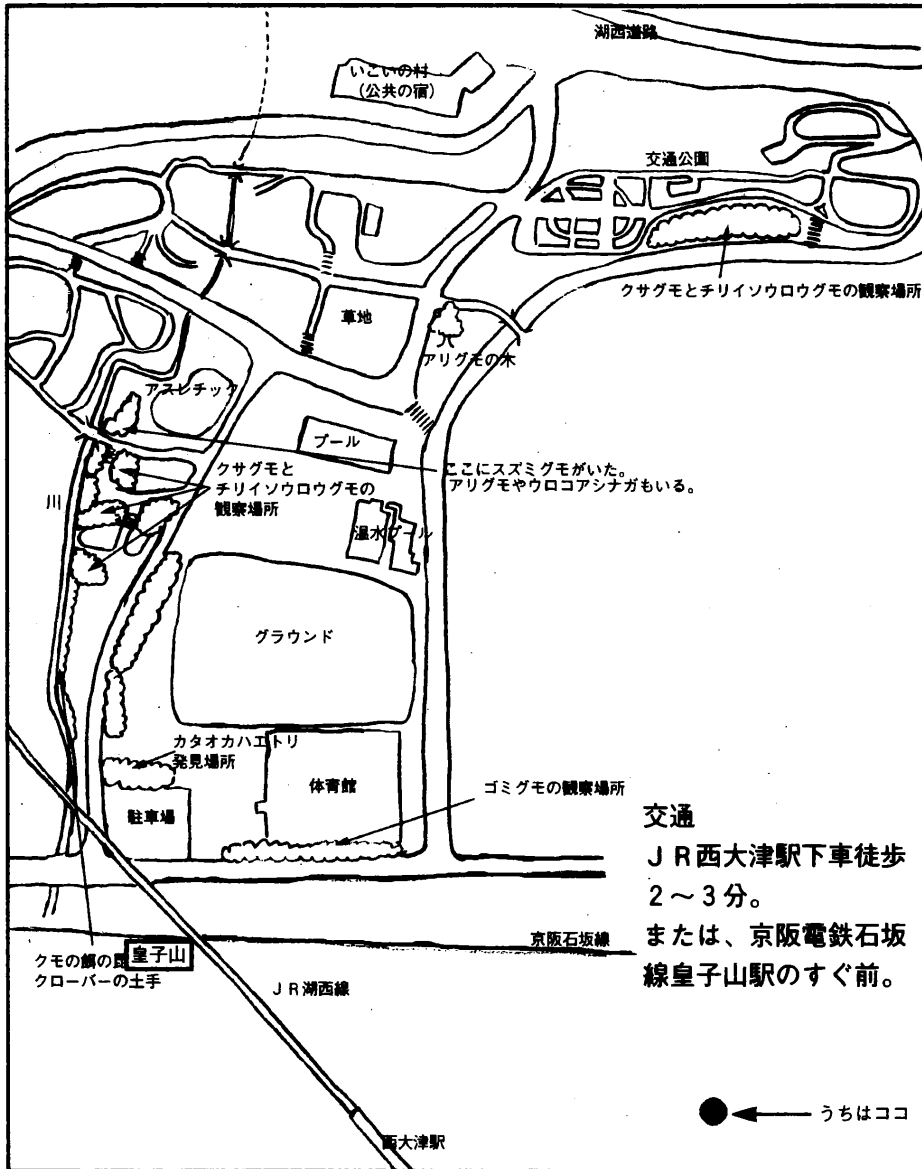
というわけで、年々フィールドとしての質は低下しているように思える公園ですが、私たち夫婦は、アリグモやクサグモ、チリイソウロウグモ、ゴミグモといった、特殊な環境を選ばないクモを観察の対象にしているので、公園整備に対して文句を言いながらも、あまり問題もなくフィールドとして利用しています。観察する網にナンバーを付けても、誰かに取られてなくなることもありません。

2000年の夏は70日ほど毎日この公園に通い、チリイソウロウグモの観察をしました。毎日観察するには、歩いて7～8分の近さはとてもありがたいものです。特に、マークアンドリリースをするためには(麻酔してマークするため、チリイソウロウグモを一度家に持ち帰り、マークしてまた元の場所に放した)、家から離れた場所だとなかなか大変です。そういう意味でも、私たちにとってこの公園はとても貴重な場所となっています。

ちなみに、この公園で採ったいちばん珍しいクモは、カタオカハエトリです(残念ながらこの標本は行方不明になった)。2年に1度ぐらいスズミグモを見ることもあります。

クモ採集を目的にするには、全くおもしろくない場所ですが、近いが故に足繁く通えるので、毎年クモの変化も分かります。たとえば、1999年はジョロウグモの個体数が少なく、しかもやせ細っていたのですが、2000年は個体数が多く、ほとんどの個体がぶりぶりに太っていました。アオオニグモもたくさん見られる年とほとんど見られない年があります。もちろんこれはただの印象で、記録をとったわけではありません。先日、クモにも当たり年があるようだというお話を聞いて、記録をとり、定点観測してみるものいいかもしれないなと思っています。

皇子が丘公園



同定指南Ⅲ

ワシグモ科 Gnaphosidae (その2)

加村隆英

エダイボグモ属 *Cladothela*

エダイボグモ *Cladothela boninensis* Kishida 1928 は小笠原諸島の固有種です。岸田 (1928) は本種の出糸突起の一部が枝分かれしているように見える点に注目しました。本種においては、出糸突起中対の背面部が大きく膨らんでいて、そこに多数の出糸管が分布しています。つまり、本来の先端部に加えて、この膨らみがあるために、全体として枝分かれしているように見えるのです。ただし、実際には、「枝」と呼べるほど明瞭に突出しているわけではありません (図1-2)。

岸田はこの形質を本種に特有のものと考えました。しかし、現在では、この形質はワシグモ科の他のいくつかのグループにも見られること、また、この形質は雌にだけ見られるもので、雄の出糸突起中対はエダイボグモそのものをはじめ、いずれのグループにおいても単純に細長い形であることが分かっています。

さて、このエダイボグモがタイプ種になっているエダイボグモ属には、今のところ、日本産として5種が記録されています。

エダイボグモ属の特徴

本属のもっとも顕著な特徴は、雄の触肢の腿節側面にひじょうに太いかぎづめがあることです (図3)。これはワシグモ科の他のグループにはまったく見られない際立った特徴です。したがって、雄の成体であれば、この特徴だけで簡単に本属であることが分かります。

しかし、雌や幼体の場合は、もう少し細かいところを見なければなりません。上顎の後牙堤を見てみましょう。ワシグモ科のほとんどのグループでは、後牙堤に1本または数本の歯、あるいは、特殊な形の突起があります。しかし、エダイボグモ属においては、後牙堤には歯あるいは突起がまったくありません。日本産ワシグモ科のなかで、本属以外にこの特徴をもつのは、ホシジロトンビグモとタソガレトンビグモだけです。これら2種では、腹部背面に図4-5のような白い斑紋があります。エダイボグモ属では、エダイボグモだけは腹部に図6のような斑紋がありますが、他の4種では腹部に斑紋はありません。つまり、以上をまとめると、次のようになります。

エダイボグモ属をワシグモ科の他のグループと見分けるための検索

- 1. 上顎後牙堤に歯または突起がまったくない 2
- 上顎後牙堤に1本以上の歯または何らかの形の突起がある 他の諸属
- 2. 腹部背面に斑紋がある 3
- 腹部背面は一様に褐色で斑紋がない エダイボグモ属 (エダイボグモ以外)
- 3. 腹部の斑紋は図4-5 のようである

・・・・・・・・・・・・・・・・・・ホシジロトンビグモ または タソガレトンビグモ
ー 腹部の斑紋は図6のようである・・・・・・・・・・エダイボグモ属(エダイボグモのみ)

日本産の5種のうち、エダイボグモは小笠原諸島にだけ分布します。また、ハエミノチャクロワシグモ *Cladothela auster* Kamura 1997 は今のところ、沖縄県でのみ確認されています。ここでは、他の3種について、その同定のポイントを説明します。

チャクロワシグモ *Cladothela oculinotata* (Bösenberg & Strand 1906)

全体に暗赤褐色で、つややかな光沢があります。本種の特徴は、上顎の牙が扁平でひじょうに変わった形態をしていること(図7-8)と、下顎に太短い毛が密生すること(図9)です。また、雌の出糸突起中対の背面の膨らみには、図2のように多数(少なくとも10個以上)の出糸管があります。体長は 6.0~8.5 mm。本州、四国、九州のほかに石垣島で採集されています。外雌器と雄の触肢は図10-13。

ムナキワシグモ *Cladothela unciinsignita* (Bösenberg & Strand 1906)

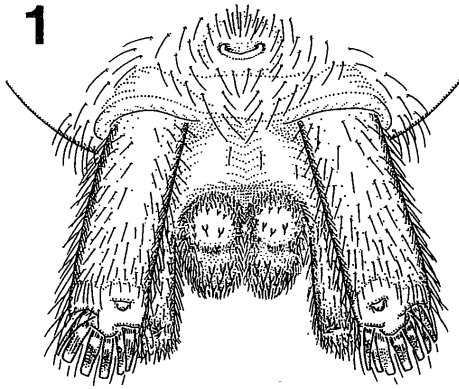
全体に前種に似ていますが、上顎の牙は普通(扁平ではない)で、下顎に生えている毛も普通です(ただし、ときにやや太めの毛があることもありますが、前種のように密生することはありません)。雌の出糸突起中対の背面の膨らみに多数の出糸管がある点は前種と同様です。体長は 4.3~8.0 mm。既知の分布地は本州と九州です。外雌器と雄の触肢は図14-16。

ヒメチャワシグモ *Cladothela parva* Kamura 1991

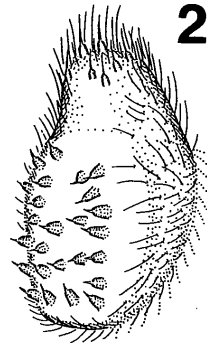
色彩は前の2種よりも明るいものが多いようです。個体によっては、ほとんど黄褐色のものもあります。上顎の牙と下顎に生えている毛は、いずれも普通です。雌の出糸突起中対の背面の膨らみには、出糸管が4個しかなく(図17)、この点で前の2種とは異なっています。体長は 4.6~5.5 mm。本州、四国、九州のほかに石垣島と西表島で採集されています。外雌器と雄の触肢は図18-20。

文献

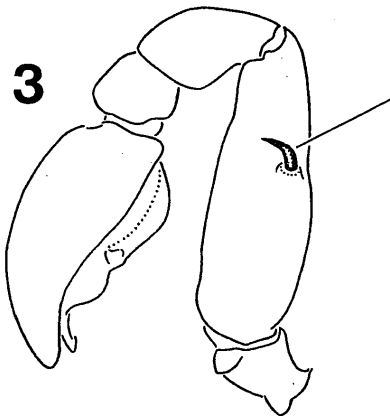
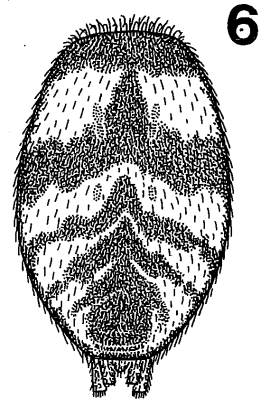
岸田久吉, 1928. 蜘蛛類に就いて(1). 理学界, 26(10): 28-33.



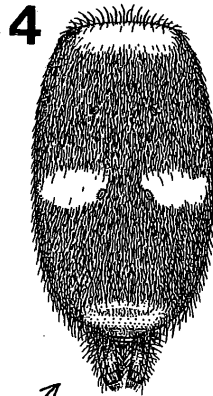
エダイボグモ



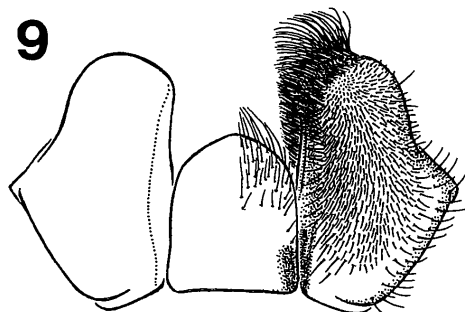
出糸突起中対(♀)



太いかぎづめ

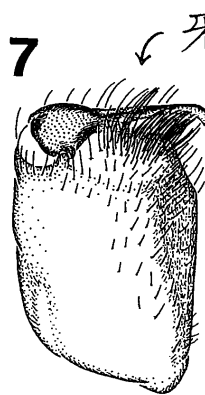


ホシジロトンビグモ
タンガレトンビグモ

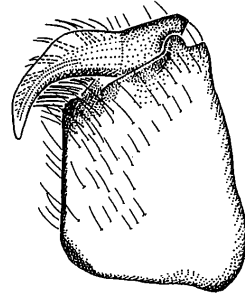


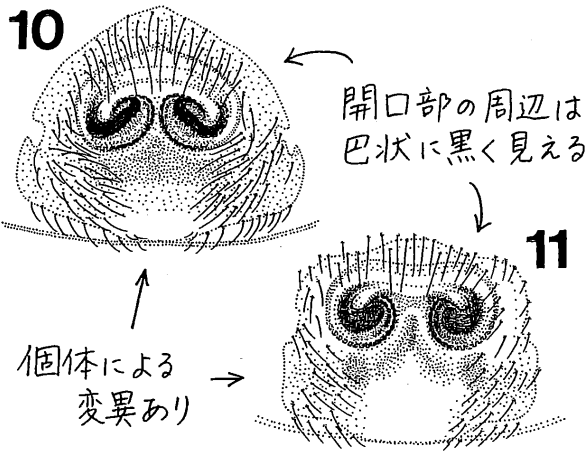
太短い毛が密生

チャクロワシグモ



牙が扁平

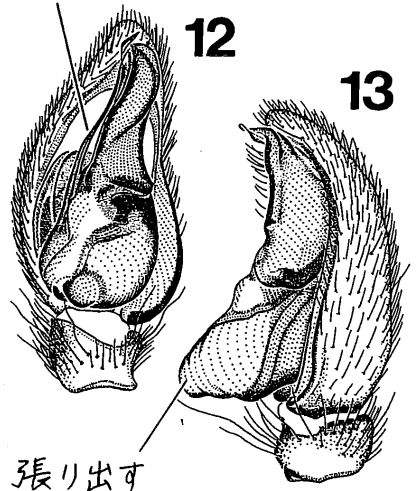




個体による
変異あり →

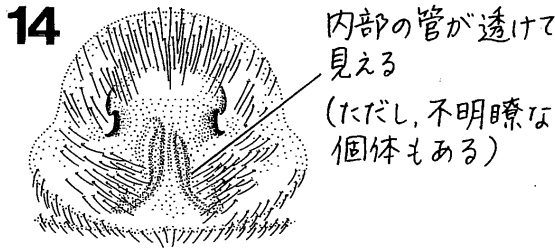
開口部の周辺は
巴状に黒く見える

栓子は細く、ほぼまっすぐ



強く張り出す

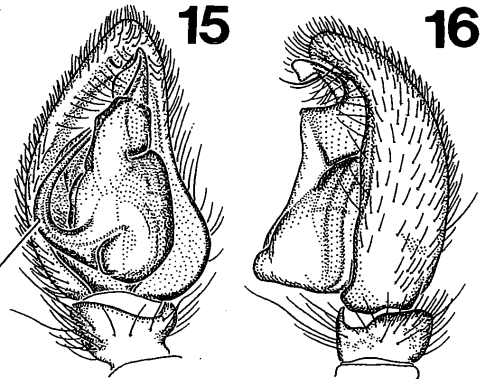
チャクロワシグモ



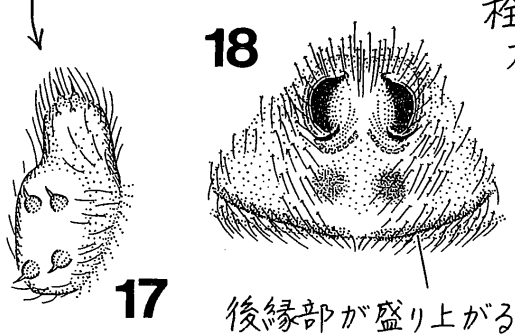
内部の管が透けて
見える
(ただし、不明瞭な
個体もある)

栓子はなめらかなカーブを描く

ムナキワシグモ

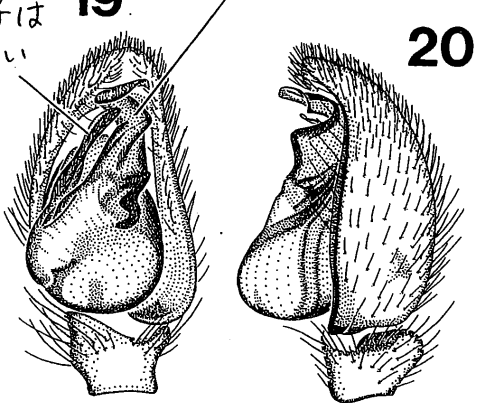


大きな出糸管は4個だけ



17 後縁部が盛り上がる

栓子は太い 19 この突起が強く屈曲する



ヒメチャワシグモ

コモリグモの脚の飾りの役割

梶元敏也

「生物の形態はそのかたちに応じた生物的役割をもつ」という考えは非常に古くからあるが、実際に形態の役割を証明するという研究は今も盛んに続けられている。なかでも、二次性徴によって雄にだけ現れてくる形質は、雄どうしの闘争に有利だったり、雌に配偶相手として選ばれやすいなどの配偶上の役割があるので性選択をうけ進化してきたのだという考えがある。今回、紹介するコモリグモの研究は、そういったクモの形態の生物的役割に関するものだ。

コモリグモの仲間の脚にはブラシの毛や黒い斑点などの飾りをもったものがある。こういう雄特有の飾りは、何らかの雌の気を引く役割をもっているのなら、この飾りを見せびらかす行動も同時に行われる必要があるだろう。コモリグモの脚の飾りの配偶上の役割を示すために、HebetsとUetzはまず、コモリグモの仲間38種について脚の飾りと求愛行動に関連があるかどうか調べた。その結果、脚に飾りのあるものは24種中24種で脚を振り上げる求愛行動を行うが、脚に飾りのない14種では5種だけで脚を振り上げる求愛行動を行うだけだった。逆に脚を振り上げない種で脚に飾りのある種は存在しない。このことから、間接的ではあるが、脚を振り上げる求愛行動と脚の飾りとは関係があることがわかる。また、系統樹がないので断言はできないが、おそらく脚を振り上げる求愛行動が先に進化し、その後に脚の飾りが進化したのだろうと考察している。

では、脚の飾りの役割は何なのか？彼らは脚の振り上げによる求愛の信号をさらに目立たせる役割があるのではないかと考えた。そこで、雄の脚の飾りと脚の振り上げによる求愛行動の異なる4種のコモリグモを用いて、実験を試みた。本当に雄の脚の飾りが、よりいっそう雌をひきつける役割をもつのなら、雄の脚の飾りを操作して、飾りのある脚、あるいは飾りの無い脚をもった雄の求愛行動を雌に見せたとき、雌は脚に飾りのある雄の求愛を積極的に受け入れるのかどうか調べた。

もちろん種が異なれば、脚を振り上げるリズムや飾り以外の細かい形態も異なる。脚だけでなく雄の体なども微妙に異なるだろう。なんとかして、雄の脚の飾りだけを操作して雌に示したい。実際にクモの脚の飾りをカミソリなどで剃ったりしたら、そのことが雄の求愛行動に影響を及ぼしてしまうかもしれない。いったい、どうやって脚の飾りだけを変化させるのか？彼らはこの問題を次のようにして解決した。まず雄の求愛行動をビデオに撮り、それをパソコンで加工して様々な形態の脚をつくる。このコンピュータグラフィックで作った雄グモの求愛行動をSONYのWatchmanというモニターに写して雌に見せ、雌の反応を観察するのである。なんでも、コモリグモに見せるにはWatchman使うと実際のクモのサイズになるということだ。私もアリグモで試してみたくなった。

さて、こうしていとも簡単に雄の脚の見た目を変化させることが可能になった。か

れらは3つのタイプの脚を雌に見せた。これらは、黒色も毛もないもの(タイプI)、黒色だが毛のないもの(タイプII)、毛のついたもの(タイプIII)の3種類である。

次の表は実験の結果である。

コモリグモの種	雄の脚の飾り	求愛行動	雌の反応
<i>Schizocosa duplex</i>	飾りは無い	脚で求愛はしない	反応しない
<i>Schizocosa uetzi</i>	毛はないが黒い	脚をあげる	どのタイプにも反応
<i>Schizocosa stridulans</i>	毛はないが黒い	脚で地面をたたく	Iのタイプに強く反応
<i>Schizocosa crassipes</i>	密生した毛	激しい脚の上下運動	IとIIの脚に強く反応

この結果から、もともと求愛行動として雄が脚を振り上げず、雄の脚に飾りの無かった*S. duplex*では、雄の脚に装飾を施しても雌はまったく反応しない。これは、本来、視覚を用いていない*S. duplex*では脚に飾りが進化しても何の役割も生じないことがわかる。一方、脚を振り上げる求愛行動を行う種の場合、*S. uetzi*では効果は見られなかったが、*S. stridulans*と*S. crassipes*では雄の脚に装飾が施されているほど雌は強く反応することがわかった。つまり、この2種では雄の脚の飾りはより強く雌を引きつける役割をもつことがわかる。このようなことから、雄の脚の飾りは、求愛の際に雌をより強く引きつける役割をもつことが示されたわけである。

脚の飾りだけでなくクモ類には変な体型をしたものが多いし、網や卵囊も変なかたちをしているものがある。誰も見向きもしないような、誰も気がついていないような変な飾りやかたちの役割がわかったときは楽しいものだ。

参考

Hebets, E.A. and G.W. Uetz (2000) Leg ornamentation and the efficacy of courtship display in four species of wolf spider (Araneae: Lycosidae). *Behav. Ecol. Sociobiol.* 47: 280-286

大原と修学院のクモ

吉田 真

大原（京都市左京区大原）は、三千院や寂光院などで知られる観光の名所であり、山に囲まれ、清流が流れる風光明媚なところである。この夏に筆者は、大原野村町とそこから数キロほど北の大原小出石町で採集を行った。大原野村町では、ムツトゲイセキグモ幼体を採集した。また、静市静原町やそこから数キロほど北西にある左京区百井でも採集を行った。百井は花背峠からほど近いかなり標高の高い集落である。これとは別に、我が家の近くの修学院でも採集を行った。ここは比叡山の登り口の一つである雲母坂（きらざか）の近くである。

標本を同定していただいた谷川明男さんに厚く御礼申し上げる。なお、Fは成メス、Mは成オス、fは幼体メス、mは幼体オス、yは幼体、eは卵のうを示している。

1) 京都市左京区大原野村町（2000年7月16, 19日, 8月20日）

ジグモ科

ジグモ y

ハグモ科

gen. sp. y

ウズグモ科

ウズグモ F, f

ヒメグモ科

アシプトヒメグモ y

オオヒメグモ F

オダカグモ y

オナガグモ F, y

チリイソウロウグモ y

ヒメグモ f, m, y

フタオイソウロウグモ F

ヤリグモ M, F, y

サラグモ科

クミスアラグモ F

gen sp. A F

gen sp. B M

gen sp. C F

ユノハマサラグモ y

カラカラグモ科

ヤマジグモ F

コガネグモ科

- アオオニグモ F
 アカイロトリノフンダマシ F, f, m
 オオトリノフンダマシ F
 オニグモ F
 ギンメッキゴミグモ F, f
 コガネグモ F, M
 コガネグモダマシ F
 コゲチャオニグモ f, y
 ゴミグモ F
 サツマノミダマシ y
 シロオビトリノフンダマシ F, y
 チュウガタコガネグモ F
 トガリオニグモ M, y
 トリノフンダマシ F
 ナガコガネグモ y
 ナカムラオニグモ F
 ヌサオニグモ F
 ムツトゲイセキグモ y
 ヤマシロオニグモ F
 ヤミイロオニグモ近似種 F
 ワキグロサツマノミダマシ y
 アシナガグモ科
 アシナガグモ F, y
 オオシロカネグモ F
 キララシロカネグモ F
 コシロカネグモ F
 ジョロウグモ y
 ヤサガタアシナガグモ y
 ヒラタグモ科
 ヒラタグモ F
 タナグモ科
 クサグモ y
 コクサグモ y
 キシダグモ科
 アズマキシダグモ F
 イオウイロハシリグモ y
 コモリグモ科
 gen. sp. y
 フクログモ科
 カバキコマチグモ F

くものいと, No.29, Jan.2001

ムネアカフクログモ y
ヤハズフクログモ y
gen. sp. M
アシダカグモ科
コアシダカグモ F
カニグモ科
コハナグモ F
ハナグモ F
ワカバグモ y
ハエトリグモ科
カラスハエトリ F
デーニツツハエトリ F
ハエトリグモ科 gen. sp. F
マダラスジハエトリ M
マミジロハエトリ y

2) 京都市左京区静市静原町 (2000年7月19日)

コガネグモ科
アカイトトリノフンダマシ F
コゲチャオニグモ y
ワキグロサツマノミダマシ F
アシナガグモ科
オオシロカネグモ F
キララシロカネグモ F

3) 左京区大原小出石町 (2000年7月30日)

ヒメグモ科
オナガグモ M
チリイソウロウグモ F, M
ヒメグモ F
ヤリグモ m
コガネグモ科
ギンメッキゴミグモ y
ゴミグモ F
アシナガグモ科
オオシロカネグモ F
コシロカネグモ F
ジョロウグモ y
タニマノドヨウグモ F
タナグモ科
クサグモ M

コクサグモ y

4) 京都市左京区百井 (2000年7月30日)

ヒメグモ科

オオヒメグモ F

オナガグモ y

ヒメグモ F

サラグモ科

アシナガサラグモ F, M

クスミサラグモ y

センショウグモ科

センショウグモ y

ヨリメグモ科

ヨリメグモ y

コガネグモ科

Araneus sp. y

ギンメッキゴミグモ F, f, m

ナガコガネグモ f

ワキグロサツマノミダマシ F

アシナガグモ科

オオシロカネグモ F

タニマノドヨウグモ F, y

チクニドヨウグモ F

メガネドヨウグモ y

ヤサガタアシナガグモ M

Tetragnatha sp. y

タナグモ科

gen. sp. y

キシダグモ科

gen. sp. y

コモリグモ科

ウツキコモリグモ F, e

フクログモ科

カバキコマチグモ F

カニグモ科

アマギエビスグモ y

コハナグモ F

ワカバグモ F, y

ハエトリグモ科

デーニッツハエトリ y

ヤハズハエトリ M

兵庫県（数ヶ所）の採集記録

田中穂積

現在、生物保護の進む中で、クモの分野においても、都道府県別の調査が行われています。そのためには、個人が大小にかかわらず採集記録を発表しておく事が基本になると思われます。

最近、大学時代（30数年前）の採集記録を見ていて、上記の趣旨から、少しの記録ですが、ここに発表させていただきます。昔のままの同定結果なので、ずいぶん誤っていると思います。ご指摘していただき、訂正していきたいと考えています。よろしくをお願いします。

1. 氷上郡氷上町氷上、1966年5月13日

ジグモ科

ジグモ

ヒメグモ科

オオヒメグモ

サラグモ科

ツリサラグモ

シロブチサラグモ

コガネグモ科

オニグモ

コガネグモ

ゴミグモ

コゲチャオニグモ

ドヨウオニグモ

ヤミイロオニグモ

ヤマシロオニグモ

アシナガグモ科

オオシロカネグモ

ヒラタグモ科

ヒラタグモ

タナグモ科

クサグモ

コモリグモ科

ウツキコモリグモ

カニグモ科

トラフカニグモ

ハエトリグモ科

アダンソンハエトリグモ

マミジロハエトリグモ

2.氷上郡氷上町氷上、1966年7月23日

ウズグモ科

ウズグモ

カタハリウズグモ

トウキョウウズグモ

エンマグモ科

コマツエンマグモ

ヒメグモ科

オオヒメグモ

カグヤヒメグモ

ヤマトコノハグモ

バラギヒメグモ

サラグモ科

ヘリジロサラグモ

コガネグモ科

イエオニグモ

コガタコガネグモ

サツマノミダマシ

ヤマシロオニグモ

ヌサオニグモ

アシナガグモ科

アシナガグモ

キヌアシナガグモ

コシロカネグモ

ミドリアシナガグモ

タナグモ科

メガネヤチグモ

ナミハグモ

キシダグモ科

アズマキシダグモ

イオウイロハシリグモ

フクログモ科

カバキコマチグモ

シャコグモ科

キンイロエビグモ

シャコグモ

スジシャコグモ

ワカバグモ

カニグモ科

キハダカニグモ

ヤミイロカニグモ

ハエトリグモ科

アオオビハエトリグモ

エクスハエトリ

カラスハエトリ

シラヒゲハエトリグモ

マガネアサヒハエトリ

ミスジハエトリグモ

3. 神戸市灘区王子 1966年7月31日

ウズグモ科

トウキョウウズグモ

ヒメグモ科

オオヒメグモ

カグヤヒメグモ

コンピラヒメグモ

ユノハマヒメグモ

コガネグモ科

ヨツデゴミグモ

ヌサオニグモ

タナグモ科

イナズマクサグモ

エビグモ科

シロエビグモ

ハエトリグモ科

エクスハエトリ

チャイロアサヒハエトリ

4. 氷上郡氷上町氷上 1966年11月6日

ウズグモ科

ウズグモ

オウギグモ

コガネグモ科

ゴミグモ

ジョロウグモ

アシナガグモ科

コシロカネグモ

タナグモ科

カチドキナミハグモ

キシダグモ科

アズマキシダグモ

カニグモ科

ハナグモ

ワカバグモ

5. 氷上郡氷上町香良 1967年8月17日

ウズグモ科

ウズグモ

オウギグモ

カタハリウズグモ

ヒメグモ科

ヒメグモ

チリイソウロウグモ

ユノハマヒメグモ

コガネグモ科

コガタコガネグモ

ワシグモ科

クロチャケムリグモ

ハエトリグモ科

イナズマハエトリ

カラスハエトリ

6. 氷上郡氷上町氷上 1967年8月25日

コガネグモ科

イエオニグモ

スズミグモ

ドヨウオニグモ

ナカムラオニグモ

キシダグモ科

アオグロハシリグモ

カニグモ科

コハナグモ

7. 氷上郡丹南町龍蔵寺 1968年8月6日

ウズグモ科

マネキグモ

ヒメグモ科

チリイソウロウグモ

ヒメグモ

サラグモ科

アシナガサラグモ

ツリサラグモ

コガネグモ科

カラフトオニグモ

ギンメッキオニグモ

ヤミイロオニグモ

ヨツデゴミグモ

ワグロサツマノミダマシ

8.多紀郡篠山町兵庫農大 1968年8月6日

ウズグモ科

カタハリウズグモ

ヒメグモ科

アシプトヒメグモ

チリイソウロウグモ

サラグモ科

ハナサラグモ

コガネグモ科

サツマノミダマシ

ナガコガネグモ

ハナオニグモ

ワキグロサツマノミダマシ

アシナガグモ科

アシナガグモ

キララシロカネグモ

タナグモ科

クサグモ

コクサグモ

エビグモ科

アサヒエビグモ

ハエトリグモ科

ネコハエトリ

9.氷上郡氷上町篠ヶ峰 1968年8月6日

ウズグモ科

カタハリウズグモ

マネキグモ

ヒメグモ科

オナガグモ

ギボシヒメグモ

コガネヒメグモ

チリイソウロウグモ
バラギヒメグモ
フタオイソウロウグモ

サラグモ科

アシナガサラグモ
シロブチサラグモ
ハナサラグモ
フタスジサラグモ

コガネグモ科

コガタコガネグモ
コガネグモ
サガオニグモ
シマゴミグモ
ハナオニグモ
マルズメオニグモ
ヤミイロオニグモ
ワキグロサツマノミダマシ

アシナガグモ科

アシナガグモ
キララシロカネグモ

タナグモ科

コクサグモ

コモリグモ科

ハリゲコモリグモ

フクログモ科

カバキコマチグモ

エビグモ科

シャコグモ

カニグモ科

キハダカニグモ
ハナグモ

ハエトリグモ科

カラスハエトリ
マミジロハエトリ

10.氷上郡氷上町篠ヶ峰 1968年10月6日

ウズグモ科

オウギグモ
マネキグモ

ヒメグモ科

オナガグモ

カニヒメグモ
トガリオニグモ
ハラナガヒシガタグモ
ヒシガタグモ

サラグモ科

ハナサラグモ
フタスジサラグモ

コガネグモ科

コガネグモ
サガオニグモ
トガリオニグモ
ナカムラオニグモ

フクログモ科

ネコグモ

11.氷上郡氷上町氷上、1968年12月10日

ウズグモ科

オウギグモ

サラグモ科

アシナガサラグモ
アシヨレグモ

タナグモ科

シモフリヤチグモ
ヤマヤチグモ

ワシグモ科

クロチャケムリグモ

フクログモ科

ムナアカフクログモ

アシダカグモ科

コアシダカグモ

シボグモ科

シボグモ

エビグモ科

シャコグモ

カニグモ科

キハダカニグモ

ハエトリグモ科

アリグモ

12.氷上郡氷上町三方、1969年4月29日

ヒメグモ科

カニミジグモ
ユノハマヒメグモ
サラグモ科
ヘリジロサラグモ
タナグモ科
ナミハグモ
コモリグモ科
ヤマハリゲコモリグモ
フクログモ科
ウラシマグモ
イツツグモ科
イツツグモ
シボグモ科
シボグモ
ハエトリグモ科
ヨダンハエトリ

13.氷上郡氷上町氷上、1969年5月25日

ウズグモ科
ウズグモ
ヒメグモ科
ヒザブトヒメグモ
コガネグモ科
ハツリグモ
アシナガグモ科
オオシロカネグモ
フクログモ科
ムナアカフクログモ
ハエトリグモ科
アメイロハエトリグモ

14.氷上郡氷上町柳町、1969年5月25日

ヒメグモ科
カレハヒメグモ
サラグモ科
ツリサラグモ
コガネグモ科
ゴミグモ
ヤマトカナエグモ
アシナガグモ科
アシナガグモ

ウロコアシナガグモ
キシダグモ科
アズマキシダグモ
イツツグモ科
イツツグモ
エビグモ科
キハダエビグモ
カニグモ科
ヤミイロカニグモ
アシダカグモ科
コアシダカグモ

15.氷上郡青垣町粟鹿峰、1969年10月26日

ウズグモ科
ウズグモ
ヒメグモ科
オナガグモ
コガネヒメグモ
バラギヒメグモ
フタオイソウロウグモ
サラグモ科
ヤマジサラグモ
コガネグモ科
ゴミグモ
ムツボシオニグモ
ヤミイロオニグモ
ヨツデゴミグモ
アシナガグモ科
メガネドヨウグモ
フクログモ科
ムナアカフクログモ
イツツグモ科
イツツグモ
ナガイツツグモ

クモリスト**私の蜘蛛採集記録 (奈良県内)****赤松史憲**

奈良県内で私が採集したクモのリストを作成してみました。実質2年間分の採集記録です。全体として全国的に分布している種がほとんどという結果になりました。また、採集地ごとに今まで採ったことのある種の標本はあまり採ってこなかった(種数ばかりを増やそうとしていた)ために、分布についてはかなり曖昧な面があります。

ここで少ないながらも23科125種を挙げましたが、私の力での未同定のクモの標本や、採集・採集地のまばら(科によって数にばらつきがある)があり、今後よりクモを採集の記録を充実させていきたいと思っています。

採集地は種名の後に示しています。

ジグモ科 (1種)

ジグモ

大和高田市幸町 奈良市白毫寺町

ハグモ科 (1種)

ネコハグモ

大和高田市磯野南町 大和高田市神楽

ウズグモ科 (4種)

ウズグモ

大和高田市市場 橿原市畝傍町 奈良市高畑町
下市町広橋 高取町観覚寺

オウギグモ

下市町広橋

カタハリウズグモ

大和高田市幸町 大和高田市池田町

マネキグモ

大和高田市池田町 橿原市畝傍町 奈良市高畑町
當麻町南今市**チリグモ科 (1種)**

チリグモ

大和高田市幸町

エンマグモ科 (1種)

ミヤグモ

大和高田市神楽

ヤマシログモ科 (1種)

ユカタヤマシログモ

大和高田市神楽

ユウレイグモ科 (2種)

シモングモ

大和高田市幸町

ユウレイグモ

橿原市畝傍町

ヒメグモ科 (14種)

アシプトヒメグモ

橿原市畝傍町 下市町広橋

オオヒメグモ

大和高田市幸町 大和高田市神楽

オナガグモ

奈良市高畑町 下市町広橋

カレハヒメグモ

大和高田市幸町

クロマルイソウロウグモ	下市町広橋
クロミジグモ	大和高田市幸町
コンピラヒメグモ	大和高田市神楽 明日香村細川
タカユヒメグモ	橿原市五井町
チリイソウロウグモ	橿原市畝傍町
ツリガネヒメグモ	橿原市畝傍町 奈良市白毫寺町 高取町観覚寺
ヒシガタヒメグモ	橿原市畝傍町
ヒメグモ	橿原市畝傍町 奈良市高畑町 高取町観覚寺 當麻町南今市
ヤリグモ	下市町広橋 明日香村細川
ユノハマヒメグモ	奈良市白毫寺町
サラグモ科 (4種)	
アシナガサラグモ	橿原市畝傍町
チビアカサラグモ	橿原市畝傍町 下市町広橋 明日香村尾曾
ヘリジロサラグモ	橿原市畝傍町
ムネグロサラグモ	下市町広橋
センショウグモ科 (1種)	
センショウグモ	橿原市畝傍町 明日香村尾曾
コガネグモ科 (33種)	
アオオニグモ	橿原市畝傍町
アカイトトリノフンダマシ	下市町広橋
イエオニグモ	大和高田市幸町
イシサワオニグモ	奈良市白毫寺町
オオトリノフンダマシ	橿原市畝傍町 下市町広橋
オニグモ	大和高田市今里町 橿原市畝傍町
キヌアミグモ	橿原市五井町
ギンメッキゴミグモ	大和高田市幸町 大和高田市磯野南町 大和高田市池田町 大和高田市神楽 大和高田市蔵之宮町 當麻町南今市
ギンナガゴミグモ	大和高田市幸町
ゲホウグモ	橿原市畝傍町
コガネグモ	大和高田市磯野南町 大和高田市市場 大和高田市池田町 橿原市畝傍町
コガタコガネグモ	大和高田市磯野南町 高取町観覚寺
コガネグモダマシ	大和高田市野口 橿原市畝傍町
コゲチャオニグモ	明日香村細川
ゴミグモ	大和高田市幸町 橿原市畝傍町 橿原市五井町
サツマノミダマシ	大和高田市神楽 橿原市畝傍町 明日香村細川

シマゴミグモ	橿原市五井町
ジョロウグモ	大和高田市神楽 橿原市畝傍町 當麻町南今市
スズミグモ	橿原市畝傍町
トゲグモ	高取町観覚寺
トリノフンダマシ	橿原市畝傍町
ナガコガネグモ	大和高田市磯野南町 大和高田市市場 橿原市畝傍町
ナカムラオニグモ	橿原市畝傍町
ハツリグモ	奈良市高畑町 奈良市白毫寺町
ビジョオニグモ	大和高田市 磯野南町 橿原市畝傍町 御所市三室 當麻町南今市
ムツボシオニグモ	大和高田市磯野南町 橿原市五井町
メガネドヨウグモ	橿原市畝傍町
ヤマオニグモ	大和高田市市場
ヤマゴミグモ	橿原市畝傍町
ヤマジドヨウグモ	奈良市白毫寺町
ヤマシロオニグモ	大和高田市幸町 大和高田市市場
ヤミイロオニグモの近似種	橿原市畝傍町
ヨツデゴミグモ	大和高田市池田町
ワキグロサツマノミダマシ	橿原市畝傍町 奈良市高畑町
アシナガグモ科 (9種)	
アゴフトグモ	下市町広橋
アシナガグモ	大和高田市幸町 大和高田市磯野南町 橿原市畝傍町
ウロコアシナガグモ	大和高田市幸町 大和高田市磯野南町 橿原市畝傍町 橿原市五井町
エゾアシナガグモ	大和高田市磯野南町
オオシロカネグモ	橿原市畝傍町 下市町広橋
キララシロカネグモ	下市町広橋
シコクアシナガグモ	大和高田市市場
ハラヒロアシナガグモ	大和高田市幸町
ヤサガタアシナガグモ	大和高田市幸町 橿原市畝傍町
ヒラタグモ科 (1種)	
ヒラタグモ	御所市三室 高取町観覚寺
タナグモ科 (6種)	
イナズマクサグモ	大和高田市市場 橿原市畝傍町
クサグモ	大和高田市市場 當麻町南今市
クロヤチグモ (旧ヤチグモ)	大和高田市神楽
コクサグモ	大和高田市幸町 大和高田市磯野南町 大和高田市神楽 當麻町南今市
シモフリヤチグモ	橿原市五井町
ヤチグモの一種 (A)	大和高田市幸町

キシダグモ科 (4種)

アズマキシダグモ
スジアカハシリグモ
スジプトハシリグモ
ハヤテグモ

大和高田市蔵之宮町 高取町観覚寺
橿原市畝傍町 明日香村尾曾
橿原市畝傍町
大和高田市市場

コモリグモ科 (2種)

イモコモリグモ
ハリゲコモリグモ

大和高田市磯野南町
大和高田市幸町 大和高田市磯野南町

ササグモ科 (1種)

ササグモ

橿原市畝傍町 奈良市白毫寺町
當麻町南今市

ワシグモ科 (1種)

クロチャケムリグモ

當麻町南今市

フクログモ科 (3種)

オトヒメグモ
ヤバネウラシマグモ
ヤマトコマチグモ

大和高田市神楽
大和高田市蔵之宮町
橿原市畝傍町

アシダカグモ科 (4種)

アシダカグモ
アズマカマスグモ
コアシダカグモ
ヒメアシダカグモ

高取町観覚寺
橿原市畝傍町
橿原市畝傍町
下市町広橋

エビグモ科 (6種)

アサヒエビグモ
キハダエビグモ
キンイロエビグモ (ハラジロ型)

大和高田市神楽
大和高田市蔵之宮町 橿原市畝傍町
大和高田市磯野南町 橿原市畝傍町
當麻町南今市

コガネエビグモ
シロエビグモ
シャコグモ

大和高田市幸町
大和高田市市場
橿原市畝傍町

カニグモ科 (7種)

オオヤミイロカニグモ
コハナグモ
セマルトラフカニグモ
トラフカニグモ
ハナグモ

大和高田市幸町
大和高田市磯野南町 橿原市畝傍町
橿原市畝傍町
下市町広橋 高取町観覚寺
大和高田市磯野南町 大和高田市磯野町
橿原市五井町

ヒメハナグモ
ワカバグモ

大和高田市磯野南町
大和高田市幸町 大和高田市磯野南町

ハエトリグモ科 (18種)

アオオビハエトリ	大和高田市幸町	大和高田市大谷
アリグモ	大和高田市磯野南町	大和高田市磯野町
イナズマハエトリ	大和高田市市場	橿原市畝傍町
カタオカハエトリ	大和高田市神楽	
ジャバラハエトリ	橿原市畝傍町	
シラヒゲハエトリ	大和高田市幸町	
チャイロアサヒハエトリ	橿原市畝傍町	
チャスジハエトリ	大和高田市幸町	
デーニッツハエトリ	橿原市畝傍町	奈良市白毫寺町
ネコハエトリ	大和高田市幸町	橿原市五井町
ヒメカラスハエトリ	橿原市畝傍町	
マミジロハエトリ	新庄町寺口	
ミスジハエトリ	大和高田市幸町	
ムツバハエトリ	下市町広橋	
メスジロハエトリ	大和高田市磯野南町	大和高田市神楽
ヤサアリグモ	大和高田市磯野南町	
ヤマジハエトリ	大和高田市幸町	
ヨダンハエトリ	大和高田市幸町	

<参考>

写真日本クモ類大図鑑 千国安之輔
フィールド図鑑クモ 新海栄一,高野伸二

2000,11,7現在

第3回姫路市青山採集会標本目録

清水裕行

既報のように兵庫県姫路市青山で春の採集会が開催された。参加者から採集したクモの同定リストが寄せられ、それらを清水が集計して目録にまとめたのでここに報告する。

記

1. 採集日時

2000年(平成12年)5月28日(日), 11:00~16:00

2. 採集場所とこれまでの調査状況

今回の採集地, 兵庫県姫路市青山は市の西部, 夢前川の西岸に当り太子町と境を接する。採集は上池周辺と「星の子館」と「こどもの館」の間の斜面(一部は姫路市に属する)で行われた。

桜山貯水池周辺の姫路市大字青山から太市中にかけては, 「姫路科学館」「星の子館」「こどもの館」「ネイチャーセンター」といった施設が連なり, 「自然観察の森」を含めて, 新文化ゾーンとでもいうべき区域である。1992年に自然観察の森調査報告が公表され, 山本一幸氏同定による101種のクモが判明した。これは当時の姫路市の記録の大部分を占めるものであった。それ以前は米田宏氏の書写山の記録33種(1969)と若干の断片的なデータがあるだけだった。その後, 1999年9月の採集会報告58種等が加わった。さらに, 船曳和代氏が青山で1998-1999両年にかけて採集したクモ124種が一挙に発表された。この結果, 青山と太市中を併せた区域からの記録は171種, 姫路市全体では199種となった。

(注) 採集会当日, 参加者に配布した目録(未発表)には145種を採録したが, これには本庄四郎氏が確認したクロガケジグモが落ちていた。これに船曳氏が本誌28号に発表した2編の結果を含めると199種となる。

3. 情報提供者

田中穂積, 東條清, 船曳和代, 西川喜朗, 加村隆英, 梶元とも子, 吉田真, 清水裕行(敬称略)。

4. 船曳氏の再調査

採集会の約1週間後の6月3日, 船曳氏は田中氏の依頼を受けて再度現地を訪れ, コモリグモ類を採集された。田中氏は採集会でミナミコモリグモのメスを採集されたが, 確認のためにオスの採集を依頼されたのである。この時の標本の内から, ミナミコモリグモのオスを含む6種のコモリグモ類が確認されたので, 船曳・田中両氏の了解を得てここにあわせて報告する。目録中には「6/3」と付記しておいた。

5. 種名一覧。

和名の後に*印があるものは新たに姫路市の記録に加わる種である

(1)トタテグモ科 (Ctenizidae)

1. キノボリトタテグモ* *Ummidea fragaria* 1♀(東條).
 岩の表面に住居があった.
 (2)ガケジグモ科 (Amaurobiidae)
2. ヤマトガケジグモ* *Titanoeca albofasciata* 1y(西川).
 (3)ウズグモ科 (Uloboridae)
3. マネキグモ *Miagrammopes orientalis* 1♀(東條);1♀(清水).
 4. カタハリウズグモ* *Octonoba sybotides*
 1♀(田中);1♀(東條),1♀(船曳);2♀,2♂,1♂y(西川);2♀(加村);2♀y,1♂y,1y(吉田).
5. ウズグモ *O. varians* 2♀(清水).
 (4)タマゴグモ科 (Oonopidae)
6. ナルトミダニグモ* *Ischnothyreus narutomii* 1♀(清水).
 (5)ユウレイグモ科 (Pholcidae)
- 7.ユウレイグモ *Pholcus crypticolens* 2♂(西川);2♀(加村).
 (6)ヒメグモ科 (Theridiidae)
8. ツリガネヒメグモ *Achaearanea angulithorax* 1♀(東條).
 9. ヒメグモ *A. japonica* 1♀,1♀y,1b(東條).
 10. オオヒメグモ *A. tepidariorum*
 1♀y,1b(東條);1♀(船曳);1♀(西川);1y(吉田).
11. シロカネイソウロウグモ *Argyrodes bonadea*
 1♀y(東條);1♀,1♂(西川);2y(吉田);1♀(清水).
12. オナガグモ *A. cylindrogaster* 1♀(東條);2♀(西川);1♀(加村);1♀(西嶋).
 13. フタオイソウロウグモ *A. fur* 1♀y,1♂y(西川);2y(吉田).
 14. チリソウロウグモ *A. kumadai* 1y(吉田).
 15. ヤリグモ *A. saganus* 1♀y(東條).
 16. キベリミジグモ *Dipoena flavomarginata* 1♀y(加村).
 17. ハンゲツオスナキグモ *Steatoda cavernicola* 1♀(東條);1♀(西川).
 18. スネグロオチバヒメグモ *Stemmops nipponicus* 3♀,2♂(西川).
 19. バラギヒメグモ *Theridion chikunii* 1♀(西川);1♀(加村).
 20. ヒロハヒメグモ *T. latifolium* 1♀(加村).
 (7)サラグモ科 (Linyphiidea)
21. ハラジロムナキグモ *Diplocephaloides saganus* 2♀(加村);2♀(清水).
 22. ノコギリヒザグモ *Erigone prominens* 1♂(清水).
 23. アシナガサラグモ *Linyphia longipedella* 1♀y(加村),1y(吉田).
 24. ヘリジロサラグモ *L. oidedicata* 1♀y(東條);1♀(吉田).
 (8)カラカラグモ科 (Theridiosomatidae)
25. ヤマジグモ *Ogulnius pullus* 1y(船曳);3♀(加村);1♂(吉田).
 (9)ヨリメグモ科 (Anapidae)
26. ヨロイヒメグモ *Comaroma maculosum* 1y(船曳);1♀(西川);1♀(清水).
 (10)コガネグモ科 (Aranedae)
27. ハツリグモ *Acusilas coccineus*

- 1♀(田中);1♀(東條);1♂,1y(西嶋);1♀,1♂,1♀y(清水)
- 28.コガネグモ *Argiope amoena* 1♀y,1b(東條);1♂y(西嶋);1♀y(清水).
- 29.チュウガタコガネグモ *A. boesenbergi* 1♀y(東條);1♂(西嶋);1♀y(清水).
- 30.ギンメッキゴミグモ *Cyclosa argentoalba*
1♀(田中);1♀(東條);1♀(船曳);1♀,1♂y(西川);1b(吉田);1♀,1♀y(清水).
- 31.ギンナガゴミグモ *C. ginnaga* 1♀(西嶋).
- 32.ヤマゴミグモ* *C. monticola* 1♀(東條);1♂(加村).
- 33.ゴミグモ *C. octotuberculata*
1♀,2♂(田中);1♀(東條);2♀(西川);1♀(吉田);2♀,2♂(清水).
- 34.シマゴミグモ *C. omonaga*
1♀(東條);1♀(船曳);1♀(加村);2♀(榎元);1♀(吉田);1y(西嶋).
- 35.コガネグモダマシ *Larinia argiopiformis* 2♂(田中);1♀(東條);1y(吉田).
- 36.ヤマシロオニグモ *Neoscona scylla* 1♀y(東條);1♀(吉田);2♀y(清水).
- 37.ゲホウグモ *Poltys illepidus* 1♀(榎元).
- 38.ズグロオニグモ *Yaginumia sia* 1♂(西川);1♀y(吉田).
- (11)アシナガグモ科 (Tetragnatidae)
- 39.チュウガタシロカネグモ* *Leucauge blanda* 1♀(西川).
1954年以前にはオオシロカネグモと混同されていたケースがあり, 県内の確実な記録は大岡山と浜坂町からしかなかった.
- 40.オオシロカネグモ *L. magnifica*
1b(東條);1♂(船曳);2♀y(吉田);1♀y(西嶋),2♂(清水).
- 41.コシロカネグモ *L. subblanda* 1♀y,1♂y(西川).
- 42.ヤサガタアシナガグモ *Tetragnatha maxillosa* 1♀(船曳);1♂(清水).
- 43.アシナガグモ *T. praedonia*
1♀y(東條);1♀,2♂(西川);1♂y,1♀y(吉田);1♀(清水).
- 44.ウロコアシナガグモ *T. squamata*
1b(東條);1♂,1♀y,1y(加村);1y(吉田);1♂(西嶋);1♀(清水)
- (12)タナグモ科 (Agelenidae)
- 45.イナズマクサグモ* *Agelena labyrinthica* 1y(船曳);2y(西川)
県下では但馬から報告があるのみで南部からは初めてである.
- 46.クサグモ *A. limbata* 1♀y(東條);2b(西川)
- (13)コモリグモ科 (Lycosidae)
- コモリグモ科は日本野鳥の会(1992)には全く記録がなく, 船曳(2000)によってチビコモリグモ1種が報告されているだけである. 今回, 兵庫県新記録を含む6種が加えられた.
- 47.ハラクロコモリグモ* *Lycosa coelestis* 1♀,1y(田中);1b(6/3,船曳).
- 48.イナダハリゲコモリグモ* *Pardosa agraria* 2♂(6/3,船曳).
- 49.ウツキコモリグモ* *P. astrigera* 1b(6/3,船曳).
- 50.ハリゲコモリグモ *P. laura* 3♀,1♂(田中);1♀(船曳).
- 51.テジロハリゲコモリグモ* *P. yamanoi* 2♂(6/3,船曳).

兵庫県新記録。池の縁で採集された。田中氏によれば各地の湿地で見られるという。姫路市近辺では岡山県鹿久居島（模式産地）と大阪府和泉市からの記録があった。

52. ミナミコモリグモ* *Pirata meridionalis* 4♀(田中); 7♀, 2♂(6/3, 船曳).
 53. チビコモリグモ *P. procuruvus* 4♂, 2♂y(田中); 4♂, 2♂y(6/3, 船曳).

(14) ササグモ科 (Oxyopidae)

54. ササグモ *Oxyopes sertatus*
 1♀y(東條); 2♀y, 2♂y(西川); 1b(榑元); 1♀y(吉田); 2♂y(清水)

(15) フクログモ科 (Clubionidae)

55. ヤマトコマチグモ *Chiracanthium lascivum* 1♂(船曳)
 56. イタチグモ *Itatsina praoticola* 1♀y(東條); 3y(西川).
 57. オトヒメグモ *Orthobula crucifera* 1♀, 1♂(西川); 1♀, 1♂(清水).
 58. キレオビウラシマグモ *Phrurolithus coreanus* 1♀(加村).

県内では但馬地方の4ヵ所から記録がある。

59. ネコグモ *Trachelas japonicus* 1♀(加村).

(16) シボグモ科 (Ctenidae)

60. シボグモ *Anahita fauna* 1b(西川).

(17) ワシグモ科 (Gnaphosidae)

61. フタホシテオノグモ *Callilepis schuszeri* 3♀, 2♂, 1♀y(加村).
 62. マエトビケムリグモ *Sernokorba pallidipatellis* 1♀(西川); 2♂(加村).
 63. クロチャケムリグモ* *Zelotes asiaticus* 2♀(加村).

(18) カニグモ科 (Thomisidae)

64. コカニグモ *Coriarachne fulvipes* 1♀y(東條); 1♀y(吉田).

北海道を除いて普通に分布するが、採集例は意外と少ない。県下では浜坂町と伊丹市から報告があるのみである。

65. ハナグモ *Misumenops tricuspidatus* 2♀(西川).
 66. ワカバグモ *Oxytate striatipes* 1♂(清水).
 67. アズチグモ *Thomisus labefactus* 1y(西川).
 68. セマルトラフカニグモ *Tmarus rimosus* 1y(加村).
 69. ヤミイロカニグモ *Xysticus croceus* 1♀, 1♂(船曳); 1♀(加村).
 70. アズマカニグモ* *X. insulicola* 1♂(榑元).

兵庫県新記録。

(19) エビグモ科 (Philodromidae)

71. ケンイロエビグモ* *Philodromus auricomus* 1♂(船曳).
 72. アサヒエビグモ *P. subaureolus* 2♀y(加村); 1♂y(清水).
 73. ヤドカリグモ* *Thanatus miniaceus* 1♂(田中).

全国的に分布する種であるが、県内からの記録は少なく、扇ノ山と浜坂町からの報告があるのみである。

74. シャコグモ *Tibellus tenellus* 1y(船曳); 1♀(西川); 1♂y(加村).

(20) ハエトリグモ科 (Salticidae)

75. ネコハエトリ *Carrhotus xanthogramma* 1♀, 1♂(西川); 1♀y(吉田).

76. マミジロハエトリ *Evarcha albaria*
1♀, 1♂(田中); 1♀(船曳); 1♂(西川); 1♂(加村); 1♀y(西嶋).
77. ジャバラハエトリ *Helicius yaginumai* 3♀(加村); 1♂(清水).
78. ヤハズハエトリ *Mendoza elongata* 1♂(加村).
79. シラヒゲハエトリ *Menemerus fulvus* 1♀y(加村).
80. チャイロアサヒハエトリ *Phintella abnormis* 1y(西川); 1♂(加村).
81. キアシハエトリ *P. bifurcilinea* 1♂(船曳); 1♂(加村).
82. メスジロハエトリ* *P. versicolor* 1♀y(加村).
83. デーニッツハエトリ *Plexippodes doenitzi* 1♀(東條); 1♀(加村).
84. イナズマハエトリ* *Pseudicius vulpes* 1♂(田中).
85. カラスハエトリ *Rhene atrata* 1y(加村).
86. ヒメカラスハエトリ *R. sp.* 2y(西川).

未記載であるが、池田博明氏から独立種と考えてよいという助言をいただいた。日本野鳥の会による自然観察の森調査報告(1992, 山本一幸氏同定)でも報告されている。千国安之輔氏の『写真日本クモ類図鑑』(1989)に写真があり、腹部の斑紋で容易に区別ができる。

87. アオオビハエトリ *Siler cupreus* 1♀, 1♂(加村); 1♂y(吉田).

以上、寄せられた情報のうち、種名の判明したもののみを挙げたが、その他にも成体で種名まで確定できなかったものがあるので、参考までに紹介する。いずれ正しい学名が判明すれば改めて報告したい。

- (1) ダニグモの1種 *Opopaea* sp. 1♀(西川); 2♀(清水).

O. syarakui シアラクダニグモである可能性が高いが、従来の文献に明確なメスの記述がないため、西川氏と相談の上、オスが確認されるまで種の特定を保留した。

- (2) ウラシマグモの1種 *Phrurolithus* sp. 1♀, 1♂(西川).

西川朗氏によると、成体だが体長2mm程度で国内産の既知種のどれにも当てはまらないので、新種か日本新記録の可能性があるといる。

6. まとめ

以上、87種が確認された。これまでに姫路市から知られていた記録に17種が加わって216種となった。

今回は、参加者から採集結果をその場で聞き書きする方法は採らず、後日それぞれの同定結果を送ってもらうよう手配した。より正確な情報を集めたいと考えたためだが、その一方で各種の雌雄・個体数等も詳記することにしたため、すぐに同定結果が集まるか心配でもあった。しかし思いのほか早く揃い、報告を出すことができた。皆さんが煩雑さを厭わず協力して下さったお陰で、分布資料として厚みのあるものにできたと思う。参加者の皆さんに改めて感謝の意を表したい。なお、コースと参加者については『くものいと』28号、49-50頁も参照されたい。

7. 参考資料

これまでに発表された姫路市のクモ分布資料としては以下の16編が確認されている。

(A) リスト形式のもの

- 1.米田宏,1969.書写山(姫路市)のクモ類について. *Atypus*,(51/52):25-28 [33種]
- 2.日本野鳥の会編,1992.姫路市自然観察の森 林内基礎調査報告書.180 pp. [102種.同定は山本一幸氏]
- 3.船曳和代,2000a.姫路市青山.くものいと,(27):44-45 [関西クモ研究会の採集会報告.58種]
- 4.船曳和代,2000b.姫路市書写山のクモ.くものいと,(28):39-41 [51種]
- 5.船曳和代,2000c.姫路市青山のクモ.くものいと,(28):42-46 [124種]

(B) 断片的な採集報告

- 6.八木沼健夫,1969.分布資料. *Atypus*,(51/52):6 [米田氏が採集した書写山の3種.米田氏が報告していないコケコグモを含む]
- 7.西川喜朗,1973.日本産 *Coelotes* の2新種.追大文紀,(7):75-81 [上と広嶺山からウスイヤグモ]
- 8.西川喜朗,1974.日本産のヤチグモ属総説.追大文紀,(8):174-182 [上砥堀産のワフヤチグモ]
- 9.西川喜朗,1975.ヤチグモの分布と変異について(予報).追大文紀,(9):173-185 [と岩屋寺からカヤチグモ]
- 10.西川喜朗,1976.日本産ヤチグモ属の地理的分布(予報).追大10周年記念論集,pp.1043-1066 [ヤマヤチグモ(米田,1969を引用)]
- 11.西川喜朗,1977.大阪府箕面産ヤチグモの3新種. *Acta arachnol.*,27:33-44 [上砥堀・仁豊野・岩屋寺からヒメワフヤチグモ]
- 12.Kumada,K.,1990.A new species of the genus *Argyrodes* from Japan. *Acta arachnol.*,39:1-5. [ツナガ イワウグモ]
- 13.船曳和代,1999.姫路市青山でマメイタイセキグモとカトウツケオグモを採集.くものいと,(25):9-10
- 14.榎元とも子,1999.珍品, ヒシガタヒメグモを採ったけれど…遊絲,(5):8-9. [青山から]
- 15.新海明・谷川明男,1999.採集情報.遊絲,(5):15. [榎元氏が採集したヒシガタヒメグモを再録]

(C) 総括的な記事

- 16.姫路科学館,1999.姫路周辺のクモ.クモ展-身近な小動物・小さな芸術家,pp.41-45. 姫路市科学館,姫路市. [館内で開催された「クモ展」の展示解説書.123種を収録]

関西クモ研究会奈良市内採集会の報告

坂口佳史

奈良市で秋の採集会が開催された。参加者からクモの同定リストが寄せられ、それを坂口が目録にまとめたので下記のとおり報告します。

記

1. 採集日時 2000年(平成12年9月24日(日)) 11:00~15:00

2. 採集場所の概要

奈良市「高畑町(タカバタケチヨウ)」「白毫寺町(ビャクゴウジチヨウ)」は奈良盆地の北東の端に位置し、能登川が両町を分ける境界で、住宅地から山地に至る標高120m~350mの地域である。

当日は、晴れ時々曇り、最高気温27度で、前日60mmの降雨の後のやや蒸し暑い気候だった。風は無いか弱かった。

3. 採集会参加者 計12名

西川喜朗、吉田 真、田中穂積、加村隆英、船曳和代、清水裕行、坂口佳史、赤松史憲、池田幸二、池田和穂、池田勇介、池田亮太、(敬称略)
種類総数77種同定者名は報告者(標本所有者)名とした。

種名一覧(奈良市高畑町、Alt.120m~150m)

(1) ジグモ科 (Atypidae)

1. ジグモ *Atypus karschi* (巢を目撃) 加村.

(2) ガケジグモ科 (Amaurobiidae)

2. クロガケジグモ *Lexeuticus robustus* 1 ♀ 加村.

(3) ウズグモ科 (Uloboridae)

3. マネキグモ *Miagrammopes orientalis* 1 ♀ 赤松.

(4) マシラグモ科 (Leptonetae)

4. ヨコフマシラグモの一種 *Leptoneta* sp. 1 ♂ 西川.

注) ヨコフマシラグモに似ている

(5) ユウレイグモ科 (Pholcidae)

5. ユウレイグモ *Pholcus crypticolens* 1 ♀ 加村. 1 ♀ 清水.

(6) ヒメグモ科 (Theridiidae)

6. オオヒメグモ *Achaearanea tepidariorum* 1 ♀ 加村.

7. ヒメグモ *Achaearanea japonica* 2 ♀ 吉田. 1 ♀ 赤松. 1 ♀ 加村.

8. カグヤヒメグモ *Achaearanea culcivora* 1 ♀ 西川.

9. オオツリガネヒメグモ *Achaearanea nipponica* 1 ♀ 吉田.

10. ツリガネヒメグモ *Achaearanea angulithorax* 1 ♀ 加村.

11. オナガグモ *Argyrodes cylindrogaster* 1 ♀ 赤松. 1 幼体 加村. 1 ♂ y 清水.

- (7) サラグモ科 (Linyphiidae)
12. アシヨレグモ *Labulla contortipes* 亜成体 1♂加村.
13. クスミサラグモ *Liphia fusca* 1吉田.
- (8) タナグモ科 (Agelenidae)
14. クロヤチグモ *Coelotes exitialis* 1y池田.
15. ヒメヤマヤチグモ *Coelotes michiikoae* 1♀y清水 (10/12脱皮成体)
16. カミガタヤチグモ *Coelotes yaginumai* 2♀y西川. 1♂y船曳.
- (9) サラグモ科 (Linyphiidae)
17. アシヨレグモ *Labulla contortipes* 亜成体 1♂加村.
18. クスミサラグモ *Liphia fusca* 1吉田.
- (10) ヨリメグモ科 (Anapidae)
19. ヨロイヒメグモ *Comaroma maculosum* 1♀. 1♀西川.
- (11) コガネグモ科 (Araneidae)
20. ナガコガネグモ *Argiope bruennichii* 1♀吉田.
21. コガタコガネグモ *Argiope minuta* 1♀清水.
22. ヤマシロオニグモ *Neoscona scylla* 1♀吉田.
23. ムシバミコガネグモ *Argiope aetherea* 1♀西川.
24. ワキグロサツマノミダマシ *Neoscona mellottei* 1♀加村. 1♀赤松.
25. ギンメッキゴミグモ *Cyclosa argenteoalba* 1♀亜成体 1♂吉田.
26. ハツリグモ *Acusilasu coccineus* 1♀赤松. 1y清水.
- (12) アシナガグモ科 (Tetragnathidae)
27. アシナガグモ *Tetragnatha praedonia* 1y吉田. 1♀加村.
28. オオシロカネグモ *Leucauge magnifica* 1♀吉田. 1♀清水.
29. ジョロウグモ *Nephila clavata* (目撃)加村. 1♀吉田. 1y坂口.
- (13) ヒラタグモ科 (Urocteidae)
30. ヒラタグモ *Uroctea compactilis* 1♀吉田. 1♀西川. 1♀ (清水奈良公園)
- (14) タナグモ科 (Agelenidae)
31. クロヤチグモ *Coelotes exitialis* 1y池田.
32. ヒメヤマヤチグモ *Coelotes michiikoae* 1♀y清水 (10/12脱皮成体)
33. カミガタヤチグモ *Coelotes yaginumai* 2♀y西川. 1♂y船曳.
- (15) コモリグモ科 (Lycosidae)
34. ウツキコモリグモ *Pardosa astrigera* 1y吉田. 1y西川.
- (16) ササグモ科 (Oxyopidae)
35. ササグモ *Oxyopes sertatus* 1y西川.
- (17) フクログモ科 (Clubionidae)
36. マダラフクログモ *Clubiona maculata* 1♂吉田.
37. イタチグモ *Itatsina praticola* 1y清水. 1y西川.
38. オトヒメグモ *Orthobula crucifera* 5♀3♂1♀y西川.
39. コムラウラシマグモ *Phrurolithus komurai* 3♀y2♂y西川.
- (18) シボグモ科 (Ctenidae)

40. シボグモ *Anahita fauna* 1 y 加村. 1 y 西川.
 (19) ハエトリグモ科 (Salticidae)
 41. マミジロハエトリ *Evarcha albaria* 1 ♀ 赤松.
 42. シラヒゲハエトリ *Menemerus fulvus* ♂ ♀ y 吉田. 1 ♂ 西川.
 43. チャスジハエトリ *Plexippus paykulli* ♂ ♀ y 吉田. 1 ♀ y 西川.
 44. アオオビハエトリ *Siler cupreus* 亜成体 1 ♂ 加村.

————— 種名一覧 (奈良市白毫寺町 Alt.130m~350m) —————

- (1) ジグモ科 (Ctenizidae)
 1. ジグモ *Atypus karschi* 1 ♀ 西川. 1 ♀ 坂口.
 2. ワスレナグモ *Calommata signatum* 1 ♀ 田中.
 (2) ハグモ科 (Dictynidae)
 3. ナシジカレハグモ *Lathys punctosparsa* 1 ♂ y 西川.
 (3) ウズグモ科 (Uloboridae)
 4. ウズグモ *Uloborus varians* 1 赤松.
 5. カタハリウズグモ *Uloborus sybotides* 1 ♀ y 1 ♂ y 西川.
 6. オウギグモ *Hyptiotes affinis* 1 ♀ 池田勇介
 (4) エンマグモ科
 7. ミヤグモ *Ariadna latelaris* 1 ♀ 吉田; 1 ♀ 清水.
 8. コマツエンマグモ *Segestria nipponica* 1 ♀ 清水.
 (5) マシラグモ科 (Leptonetidae)
 9. ヨコフマシラグモの一種 *Leptoneta* sp. 1 ♂ 西川.
 注) ヨコフマシラグモに似ている。
 (6) ユレウグモ科 (Pholcidae)
 10. ユウレイグモ *Pholcus crypticolens* 1 ♀ y 西川. ♀ 船曳.
 (7) ヒメグモ科 (Theridiidae)
 11. オオヒメグモ *Achaearanea tepidariorum* 1 y 吉田. ♀ 船曳.
 12. トビジロイソウロウグモ *Argyrodes cylindratus* 3 y 吉田.
 13. シロカネイソウロウグモ *Argyrodes bonadea* 1 ♀ 吉田.
 14. フタオイソウロウグモ *Argyrodes fur* y 船曳.
 15. チリイソウロウグモ *Argyrodes fissifrons* 1 ♀ 加村.
 16. カグヤヒメグモ *Achaearanea culicivora* ♀ 船曳.
 17. ユノハマヒメグモ *Theridion yunohamense* 1 ♀ 赤松. 3 y 西川.
 18. ツリガネヒメグモ *Achaesrane angulithorax* 1 ♀ 吉田. 1 ♀ 赤松.
 19. カニミジグモ *Dipoena mustelina* 1 ♀ 1 ♂ 西川
 20. オナガグモ *Argyrodes cylindrogasuter* 1 y 清水. 1 y 吉田. 1 y 坂口.
 (8) サラグモ科 (Linyphiidae)
 21. アシヨレグモ *Labulla contortipes* 亜成体 1 ♀ 亜成体 1 ♂ 加村.
 22. ユノハマサラグモ *Linyphia yunohamensis* 1 y 吉田.

- (9) センショウグモ科 (Mimetidae)
23. センショウグモ *Ero japonica* 1 y 西川. y 吉田.
- (10) ヨリメグモ科 (Anapidae)
24. ヨロイヒメグモ *Comaroma maculosum* 1 ♀ 西川. 1 ♀ 清水.
25. ヨリメグモ *Conoculus gadinus* 1 ♂ 西川.
- (11) コツブグモ科 (Mysmenidae)
26. ナンプコツブグモ *Mysmenella jobi* 1 ♂ y 西川.
- (12) コガネグモ科 (Araneidae)
27. ナガコガネグモ *Argiope bruennichii* 1 ♀ 吉田.
28. コガタコガネグモ *Argiope minuta* 1 ♀ 吉田; 1 ♀ 加村.
29. イシサワオニグモ *Araneus ishishawai* 1 ♀ 赤松.
30. ドヨウオニグモ *Neoscona adianta* 1 ♀ 坂口.
31. ワキグロサツマノミダマシ *Neoscona mellottei* 1 ♀ 吉田.
32. ギンメッキゴミグモ *Cyclosa argenteoalba* 1 ♀ 吉田. 1 ♀ 田中.
33. ゴミグモ *Cyclosa octotuberculata* y 吉田. 1 y 加村.
34. ヨツデゴミグモ *sedeculata* ♂ 亜成体 y 吉田. y 船曳.
35. ハツリグモ *Acusilasu coccinens* y 吉田. 1 ♀ 赤松. 1 y 加村.
36. キヌアミグモ *Cyrtophora exanthematica* 1 y 西川.
- (13) アシナガグモ科 (Tetragnathidae)
37. ヤマジドヨウグモ *Meta reticuloides* ♀ 吉田. 1 ♀ 赤松. 2 ♀ 加村.
38. オオシロカネグモ *Leucauge magnifica* 2 ♀ 加村. 1 ♀ 清水
39. ジョロウグモ *Nephila clavata* 1 y 坂口.
- (14) ヒラタグモ科 (Urocteidae)
40. ヒラタグモ *Uroctea compactilis* 1 y 清水.
- (15) タナグモ科 (Agelenidae)
41. コクサグモ *Agelena opulenta* y 吉田. y 船曳.
42. ホラズミヤチグモ *Coelotes antri* 1 y 西川
43. カミガタヤチグモ *Coelotes micado* 2 ♀ 西川. 1 ♂ y 田中.
- (16) キシダグモ科 (Pisauridae)
44. スジアカハシリグモ *Dolomedes saganus* y 吉田.
45. アオグロハシリグモ *Dolomedes raptor* 2 y 西川.
- (17) コモリグモ科 (Lycosidae)
46. クラークコモリグモ *Pirata clercki* 1 ♀, 2 ♂ y, 1 ♀ 田中.
- (18) ササグモ科 (Oxyopidae)
47. ササグモ *Oxyopes sertatus* 1 ♂ 赤松.
- (19) フクログモ科 (Clubionidae)
48. コムラウラシマグモ *Phrurolithus komurai* 1 ♀ 1 ♂ 1 ♂ y 西川.
- (20) イズツグモ科 (Anyphaenidae)
49. ナガイズツグモ *Anyphaena ayshides* 1 ♀ y 加村.
- (21) シボグモ科 (Ctenidae)

50. ジボグモ *Anahita fauna* 1 y 西川.
(22) アシダカグモ科 (Heteropodidae)
51. コアシダカグモ *Heteropoda forcipata* 4 ♀ y 坂口. y 吉田. 8 y 西川.
(23) カニグモ科
52. ニッポンオチバカニグモ *Oxyptila nipponica* 2 ♀ 西川.
53. ワカバグモ *Oxytate striatipes* 1 y 加村.
(24) ハエトリグモ科 (Salticidae)
54. アオオビハエトリ *Siler cupreus* y 吉田. y 船曳.
55. シラヒゲハエトリ *Menemerus fulvus* 1♂ 田中.
56. キレワハエトリ *Harmmochirus pullus* 1 ♀ 加村.
57. クワガタアリグモ *Myrmarachne kuwagata* 1 ♀ 田中.
58. デーニッツハエトリ *Plexippoides doenitzi* 1 ♀ 赤松.
59. ヨダンハエトリ *Marpissa pulla* 1♂ 西川.



奈良採集会に参加したみなさん。撮影者は坂口さん

21世紀の抱負

関西クモ研究会会員のお二人に、クモのお話や21世紀の抱負を語っていただきました。

身近なクモに関する話 3 題

山本一幸

はじめに

年令を重ねるにつれて雑用が多くなり、自分の自由になる時間が少なくなった。勤務と生活に追われるようになり、まとまった研究や調査に取り組みにくくなった。しかし、クモへの感心が薄れたわけではなく、かえって雑用の合間にに会ったクモに愛おしさを感じる。接する機会が少なくなった分、身近に見かけるクモが気にかかる。今回はそんな身近なクモに関する、とっておきの話を3つ紹介したい。

【その1】クモになりたかった昆虫がいた!

朝6時30分に起きて朝食まで約30分間、愛犬をつれての散歩が日課となっている。村はずれの川沿いの県道を歩く。山裾をぬけると水田や畑が広がり、朝の清々しい空気が気持ち良い。散歩の道すがらにクモを観察するのも楽しみの一つである。

4月から5月にかけて、山裾の低木の枝先に多数のクミスアラグモが網を張る。一回の観察は短時間だが、毎日同じ場所のクモを見てみると、小型のトビケラを捕食していたり、脱皮して成熟したメスの網にオスが入り込んで配偶行動が見られたり、ある日突然に網の主がチリイソウロウグモに代っていたりと、日を追ってクモの生活を垣間見ることができて面白い。

距離にして、わずかに往復500mほどのコースであるが、時にはこんな新発見もある。2000年5月29日、散歩の途中で崖地のヒサカキの葉裏にクモがいるのが、ふと目に止まった。愛犬が先を急いでロープを引くものだから、その時はゴミグモだろうと結論づけてその場を通り過ぎた。帰路に、もう一度そのクモを見直して驚いた。実はクモではなく、それは昆虫の鱗翅目の一種の幼虫だった。

その幼虫を背面から撮影した写真1を見てほしい。黄色く目立つ頭胸部、頭部ははっきりと頸溝で胸部と区別され、中窩まである。頭部の前方には単眼が2個あって、上顎もあるように見える。途中で枝別れした1・2脚は、左右に大きく広げられており、近寄った獲物でも捕まえるつもりだろうか。茶色の腹部の先端からは糸まで引いている。まさにクモである。

写真2は側面から撮影したものである。クモの正体は、大きくU字型に身体を曲げたガの一種と思われる幼虫である。クモの頭胸部の図柄は曲げた背の部分に描かれ、脚に見せた突起が伸びている。幼虫は頭部を上を反らせることで背の図柄と接し、クモの腹部のように見えてくる。もちろんその口から糸を引いている。

クモが昆虫に似た例では、アリそっくりなアリグモや、日中葉の上にいる姿がテントウムシに見えるアカイトリノフンダマシなどがある。しかし、昆虫がクモに似た例は聞いたことがない。クモよりずっと種類数の多い昆虫界のことである。筆者が知ら

ないだけで、あるいはけっこうクモに似た昆虫がいるのかも知れない。

この幼虫がガの一種であることは判別できるが、種名など、はっきりしたことはつかめていない。今思えば、成虫まで飼育すればよかったと痛感しているが、残念ながら写真しか残っていない。ガに詳しい方で、この幼虫に関する情報をお持ちであったら、御一報いただければ有り難い。

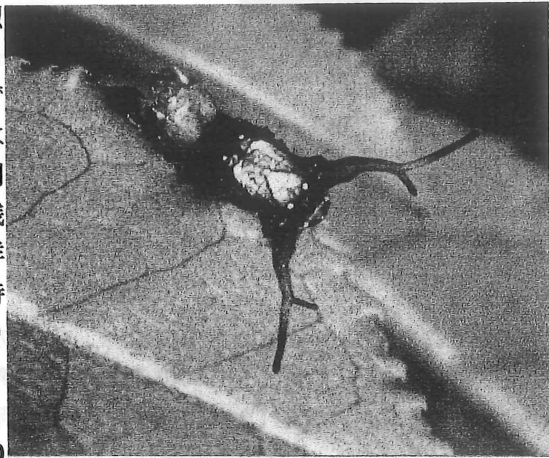


写真1(上) : ガの一種の幼虫,背面.

写真2(下) : 同じく側面.

【その2】コケオニグモの採集者は70才のおばあさん！

友人の強い勧めがあり、一昨年よりインターネットを初めた。リアルタイムで世界の情報が入手でき、しかもこちらから発信できる点が重宝している。利用価値はとても高いと思うが、まだ十分に使いこなせていない。

プロバイターはニフティに入会してる。そこに但馬地方の自然に感心を寄せるメンバーが作ったパティオがあり、生物関係を問わず、イベントやアウトドアスポーツ、音楽に至まで但馬の自然に関するあらゆる情報交換が行われている。

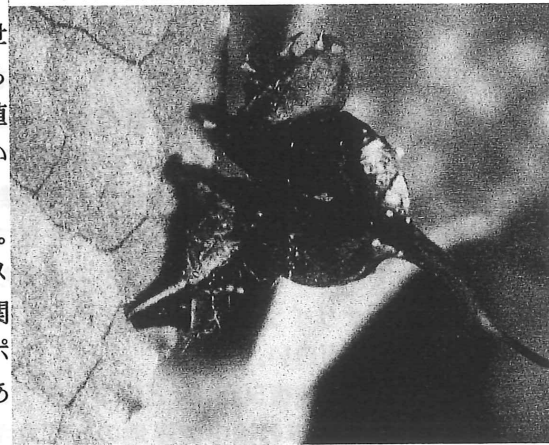
2000年8月、そのパティオのマスターから豊岡市で採集されたコケオニグモの情報が寄せられ、同時に標本を撮影した画像がホームページに掲載された。但馬地方におけるコケオニグモの採集は、10年ほど前に1例あるだけで、それ以外は無く、とても貴重である。

情報と一緒に取り寄せた画像の迫力と美しさは感動的であった。できることならモニターの写真ではなく、実物が欲しいと思った。その時は、まさかそれが実現しようとは思ってもいなかった。

9月の雨の日曜日。夕方帰宅すると家人が、近所の人からクモが届けられていると告げた。クモの研究者であると地方新聞で紹介されてから、地区の人がクモに感心を持ち、時にわざわざ採集して届けて下さるようになった。今までにトゲグモやオオトリノフングマシなどが届いている。今回もせいぜいその程度と高を括っていた。

死んでたということで、子供の虫籠の上に無造作に置かれたクモを見た時、自分の目を疑った。そこに実物のコケオニグモがいた。頭胸部は朱色に近い赤、腹部は青みがかかった灰色にオニグモの仲間独特の模様がある。脚は緑色、左第2脚の腿節の中間から先が欠損している。体長約2cm、思っていた以上に大型で美しいクモである。しば

2000年5月29日, 美方郡浜坂町久斗山



らく鑑賞した後、生息環境を想定して苔が付着した植木の幹にクモを乗せ、写真を数枚撮影した。

すぐに採集場所と採集者を調べた。なんと採集されたのは自宅から200mと離れていない近所の庭先で、採集したのは70才のおばあさんであった。

先の豊岡市と合わせて、2件のコケオニグモの採集データは次のとおりである（個体数、採集日、場所、採集者、標本所蔵の順）。

コケオニグモ *Aranius tartaricus* (Kroneberug, 1875)

1♀：2000年8月15日, 豊岡市奥野, 関岡雅人, 本庄四郎所蔵。(高橋信, 私信)

1♀：2000年9月10日, 美方郡浜坂町久斗山, 中村信子, 筆者所蔵。

豊岡市のものは、溪流沿いの小さな祠のそばの木で発見。採集して持ち帰り、飼育ケースの中で観察しているうちに腹部からハリガネムシが飛び出したとのこと。ハリガネムシの寄生は、昆虫の直翅目では稀にみられることがあるが、クモでは知らない。ホームページで腹部から出た直後の写真を見たが、かなりグロテスクである。なお、この情報を提供下さった高橋信氏に、この場をお借りして感謝を申し上げる。

浜坂町久斗山のものは、庭先の地表に落ちていた（すでにその時死んでいた）のを見つけたそうで、採集者は「70のこの年まで生きてきて初めて見るクモ」だったので珍しいと思い、隣の叔父さんと相談して筆者の元に届けたそうである。

コケオニグモの情報を新聞社に連絡すると、すぐに取材にやってきて、数日後に2社の新聞の地方版に掲載された。信子おばあさんはちょっとした有名人になってしまった。

【その3】20世紀最後のトリノフンダマシ

但馬地方におけるトリノフンダマシ属は、トリノフンダマシ、オオトリノフンダマシ、アカイトトリノフンダマシ、それに採集記録は少ないがシロオビトリノフンダマシの4種が確認されている。

いずれも7月から8月にかけて成熟した個体が見られ、日中は樹木などの葉裏にじっとしているが、夜間に活動する。夏の自然観察においてナイトウオッチングの目玉として最適である。特異な姿と網の形、それに名前からして多くの参加者の感心を引きつけ、解説名利につきる。

さて、真夏の夜の主演となったトリノフンダマシ達も、朝晩が涼しくなり、鳴く虫の声に主演を奪われてしまうと姿を見なくなる。9月の下旬には庭の植木の枝先や野原のススキの葉先に、茶褐色の紡錘形をしたオオトリノフンダマシや、白い球形のトリノフンダマシの卵のうが2~3個糸につるされ、風に揺れているのを見かけるが、クモの姿は見られない。

しかし、今年は違っていた。

10月下旬、自宅の庭先に植えられたユズの枝先、約2mの高さの場所にオオトリノフンダマシの卵のうを発見した。その枝の下には自家用車を駐車しているので、毎日の通勤で乗り降りするのだが、それまで卵のうがあることに気がつかなかった。まさか今の季節まで残っている個体が出て、新しく卵のうを作ったとは思っていなかった。し

かし、2日後の夕方、卵のうのあるユズの枝先から糸を隣の植木に張り渡し、移動するオオトリノフンダマシのメスを、5才の息子と一緒に発見した。約3mの間に張られた糸を5分程の時間で渡りきり、移動先のサザンカの葉先で動きを止めるまで観察を続けた。この個体は、それっきりで、後日周囲を探してみたがを発見できなかった。

上には上がいた。10月最後の週末、午後に時間があつたのでカメラを片手に、自宅の周囲に生息するクモを観察をしながら撮影して廻った。近くの墓地まで足をのばし、そこに植えられている樹高2.5mほどのツバキの枝先を見上げた時、6個のトリノフンダマシの卵のうがケ所にかたまつてあるのを発見した。そして、卵のうの間に、葉裏にじっとしているメスを発見したのである。それから6日後、夜の10時ごろに再び観察に行くと、同じ個体が枝先に張った糸の上で活動しているのが観察できた。その後、11月中旬までに2回の観察をしており、いずれも生存を確認している。

以下は、先程述べた10月、11月におけるトリノフンダマシ属2種の観察データである(観察日、場所、観察者は特に記述の無い場合は筆者)。

オオトリノフンダマシ *Cyrtarachne inequalis* Thorell, 1895

2000年10月28日, 美方郡浜坂町久斗山, 観察者; 山本岳大および筆者。

トリノフンダマシ *Cyrtarachne bufo* (B_s. et Str., 1906)

2000年10月28日・11月3日・11月9日・11月14日, 美方郡浜坂町久斗山。

トリノフンダマシは、11月14日から後の観察はしていないため、いつ姿を消したのか、どうなったのかは確認していない。

秋の主演であるジョロウグモでさえ、11月の中ごろにはそろそろ姿を消すという頃には、なぜトリノフンダマシは生存していたのだろうか。今年の秋は例年より暖かいのではと考え、今年と昨年の10月・11月の平均気温を豊岡気象観測所に問い合わせた。しかし、その数値は昨年と比較してもほとんど変わらない値であった。ただし、過去30年間の平均によって表される平年気温と比べると、今年の両月とも約1℃も上昇していることが判った。例年と比べて、今年の夏は空梅雨で6月から8月までの3ヶ月間、ほとんど雨が降らず猛暑の夏だった。あるいは、その影響によるものであるかも知れない。二酸化炭素による温室効果から地球温暖化が叫ばれる昨今、自然界にも少なからず異変が起きている。そんな不安を予感させる、まさに20世紀最後のトリノフンダマシであった。

おわりに

筆者の自宅のある集落は、但馬の山深い地域にある。裏山にはブナが自生しており、四季を通じて野鳥や野生動物を身近に見ることができる。もちろん生息するクモの種類も豊富である。

大きな成果をあげられないかもしれないが、これからも身近なクモを地道に調べて行きたい。

いよいよ21世紀である。情報と環境の時代と言われる中で、環境の変化に敏感で網を巧みに使うクモこそ、これからの時代を象徴する生物ではないかと思う。クモに感心を持つ人が、今後さらに増えていくことを願う。

新世紀を迎えて決意したこと

清水裕行

懸案であった『兵庫県産クモ目録』はようやく最終稿までこぎつけました。今年からは阪神地方を中心としたファウナの調査に専念できそうです。兵庫県内にけっこうある空白地帯の調査の傍ら、30年間にたまった標本のリストも公表していきたいと思えます。パソコンで登録している分布資料のデータベースは1万2千件に達しますが、兵庫県中心で偏りがあります。今年の内に関西のものは網羅したいと考えております。

クモ研究者宛てに出した今年の年賀状にはこのように書きました。これは私の「2001年の抱負」の要約といえますが、ここで少し補足させていただきます。

1. 「ファウナの調査」について

私は1964年、東京オリンピックの年に、東京から神戸に転居してきました。それ以来、住居は西宮、芦屋と移りましたが、常に六甲山の山麓に暮らしてきました。この“青春の山”六甲山のクモ相を明らかにするのが、いわば私のライフワークでした。しかし、『目録』の序文にも書いた通り、これまでに兵庫県のクモがどれだけ調査されたかを知るための資料が全くないことがわかりました。八木沼先生のお話しでは「六甲山に限らず、兵庫県の記録はほとんど皆無」でした。私も感覚としてはそう受取れましたが、兵庫県内のクモの研究が実際に遅れているのか否かを具体的な自治体で検証しておくことが必要ではないかと思うようになりました。ここで、兵庫県のクモ研究史を総括しておけば、ほかの研究者にも役に立ててもらえると考えて、まず、目録を編纂することにしました。このほど、曲がりなりにも『目録』が完成する見込み（本文の執筆時）なので、私自身も『目録』の編纂者から1利用者の立場となって、「六甲山のクモ相」を明らかにするための作業に専念できそうです。

『目録』を作ったわかったことは、やはり六甲山のクモの研究は遅れていて、全山で確認されたクモは20種弱、山麓の記録を含めても60種程度という誠にお寒い状況でした。これは、プラス思考をすれば、調査・発表し甲斐のある環境といえます。私が本格的に六甲山のクモの調査を始めたのは1972年の大学生活も終わりに近い時期で、採集場所も山地の東南部に限定されていますが、当面はこの約30年間の成果をリストにまとめようと考えております。

なお、このように“宣言”すると、とかく「唾をつけた」ように受取られて、その地域の研究発表を特定の研究者が一手独占としたような印象を与えますが、これは長い目でみて決して有益なことではなく、私の望むところではありません。私とは異なる時期に、六甲山の異なる地点で採集した人があれば、そのデータは六甲山のクモ相を解明するために有効なものとなることはまちがいありません。分布資料は多いほどよいのですから。また、私より先に六甲山のクモを全般的に調査した人があれば、その人こそ「六甲のクモ」を発表するのにふさわしい人です。そのような発表

が先に出れば、上記の私のデータはそれを補足するために役立てるつもりです。兵庫県は広いのですから、私の働き場所はまだ他所にもあります。

六甲山は大都市に近く訪れやすい山ですから、ここで採集したことがある研究者は阪神地方に多いのではないのでしょうか。その成果を遠慮なく公表していただきたいものです。

2. 「兵庫県の空白地帯」について

『目録』を完成させて痛感したことは、「兵庫県は、種の数だけからみると比較的調査の進んだ府県と思えるが、子細にみると地域的な偏りが大きい」ということです。北の但馬地方では400種近くが確認されている一方で、南の淡路島で判明したの50種強にすぎません。但馬でも南部では最近になって調査が進められた段階で、東部の出石郡は全くの空白地帯です。

兵庫県には現在、89の市町があります（村はゼロです）が、このうちの25の市町からは1種も記録がでておりません。残りの65市町の約半数が10種以下です。一つの市町で100種を超えるのは但馬の1市3町と播磨の2市だけです。いかに「リスト」の形での発表がすくないかがわかります。これも逆にみれば、「県内を歩けばその都度、空白区を消すことができる」ということになります。まとまったリストにしる、断片的な採集記録にしる、まず発表することに意義があります。

私は目録編纂の合間に東播地方（明石・加古川・高砂）から姫路市東南部、丹波地方南部（篠山市）、阪神地方の公園・神社・河川敷や僅かに残る自然林といった市街地の緑地などで採集してきました。標本数は僅かですが、いずれも記録の少ない地域なので、それらを公表することはそれなりの意義があると思います。また、県内のナチュラリスト（主として陸貝研究者）からいただいた標本もたまっております。こちらも、これを機会に報告して専門の傍らクモにまで気を配って下さった皆さんの御好意に報いたいとおもっております。

なお、聞くところによると、関東の新海明氏・谷川明男氏を中心として、全国各地の未調査地域に遠征して大規模な調査を行う計画があるようです。「そのようなことになれば、地元の研究者の面目丸つぶれ」と警告を発する人もいますが、私は歓迎すべきことだと考えています（警告した人も、地元の発憤を促す意図だったと思いますが）。兵庫県に限っても、遠方から1、2度採集に来て簡単には空白区は消滅しません。もし、そうなったのなら結構なことですし、そのまで至らなければ、我々とともに解明に努めていただければよいわけです。関西の内外を問わず、大いに“抜け駆け”、“縄張り荒らし”をしていただければ、県内の分布研究は活性化すると思います。

3. 「分布資料のデータベース化」について

実は、年賀状の文面にはちょっと問題の残る表現があります。よく、「よくこれだけの大量の文献の中から兵庫県のものだけ抜き出したものですね」と言われますが、このようなとき私は「抜き出したのは私ではなく機械（パソコン）ですよ」と答えるようにしています。「データベース」というものに対して、人間の側はできるだけ選別することを避け、目につくデータを片っ端から記録して、システム（ソフトウェア）に抽出を任せるのが理想的なのです。そうすれば、ミスをや恣意的な判断を回避することができます。私も、『目録』編纂の初期にはそれまでにデータベース中に登録しておい

た全国の分布資料の中から該当するものを抽出・編集させて一覧表を作っておりました。しかし、残りの文献中の分布資料をすべて登録することは短期間では不可能なので、その後は「兵庫県のデータがありそうな文献」だけを選んで登録しました。できるだけ全データを登録するように努めました。小野展嗣さんのカニグモ科のモノグラフ(1988)のように大部なものは近畿地方のデータに限定して登録するのがやっとでした。私のデータベースには、分布図作成の便を考慮して経緯を記録するようにしているので、土地鑑のない地方のデータ登録にはより手数がかかるのです。「不本意ながら変則的な方法をとったが、次の段階でより理想的なものに近づきたい」というのが真意です。なお、「1万2千件」(そのうち、兵庫県関連のものは5千弱)という和多いように感じるかもしれませんが、これは私の乏しいコレクションの中のほんの一部をデータベース化したにすぎません。多くの先輩方はこれに数倍するデータをお持ちなのですが、それを自覚しておられないだけです。これほど膨大な量のデータを人力による「データベース」(カード等)で処理しようとする人は、省力化のために間違いなく対象になりそうなデータのみを厳選してカード化するのが普通です。この段階で、信頼性が低いと判断されたデータは除去されますので(私はこの作業を「情報の純粋培養」と称していますが)、先に述べたように抽出漏れや恣意的な判断が生ずる可能性が高くなります。パソコンを利用できたからこそ、根がズボラな私にあのような煩雑な作業ができたので、良い時代になったものだとしみじみ思っております。

4. さらに欲張った夢

これから述べることは、今年のうちの実現できるとは考えておりませんが、「21世紀の冒頭に当っての夢」としてお聞き下さい。「日本蜘蛛学会大会の兵庫県誘致」という夢も持っているのですが、熱心な会員はいても、研究機関の関係者が皆無である現状ではあまり現実的とはいえず、そのための環境作りが先と考えます。それには、兵庫県在住者のネットワーク作りが必要ではないでしょうか。なにしろ兵庫県は広い上に、「5つの顔」を持つといわれるほど生活圏が分散しています。「大阪・京都と同じ地方」という感覚が通用するのは阪神地方とそのベットタウン化しつつある丹波南部(篠山市)と東播までで、交通の便を考えると豊岡から姫路までの距離は、大阪から姫路までより遠く感じられます。従って、関西クモ研究会の行事には但馬からの参加はなかなか大変です。但馬の研究者と交流するには、まず但馬寄りの場所で行事を企画するのが近道です。近畿各地の人達がいきなり但馬まで出向くのは困難ですが、県内在住者が兵庫県の真ん中あたりに集うのならばより現実的ではないでしょうか。幸い、但馬は県内で最も自然が豊かな地域です。発表会形式ではなく、採集会を中心とした合宿形式での「兵庫大会」などは面白いのではないのでしょうか。何度も合宿が計画されていた神鍋もいいですし、全く記録の出ていない出石郡に、隣接した京都府の研究者も招いて「大丹波大会」というのもいいと思います。「淡路島大会」で徳島県との交流をはかるのも一興と思います。淡路島在住の仲間ができればいいのですが。

寄稿

蜘蛛(クモ)が付く地名があった

須賀瑛文



昨年(2000年6月7日)、新潟県を旅した時、中頸城郡大瀧町という町に「蜘蛛池」という地名があるのを知った。蜘蛛伝説のある池は全国各所にあるが、地名そのものに蜘蛛の字が付くのは珍しいので、調べてみたら、やはりもともとは水辺(入江)であり、「ミズチ(蛇に似て角と四脚を具え、毒気を吐いて人を害するという想像上の動物)という動物が蜘蛛に化けて水辺を通る人に糸をかけて水中に引きずり込んで餌にする」という蜘蛛伝説があることが分かった。

もともとの地は入江であった(図1参照・参考文献(1)より引用)が、その後の干拓により一部が池として残った(?)ため、蜘蛛池の地名ができたものと考えられる。ところで、大瀧の新田開発は1660年ごろ着手されたが、毒蜘蛛や毒蛇が多く出て人々を大変苦しめ、作業が困難をきわめた。そこで人々は、瑞天寺の観音様に祈願したところ、蛇・蜘蛛の姿が見えなくなり、難工事を完成させることができたという。

今でも瑞天寺(図2参照・参考文献(3)より引用)はこの地に残っている。

参考文献

- (1)KEIHOKU—無形文化財等ガイドブッカー地名をたずねて 頸北地区商工振興協議会
- (2)広辞苑第二版補訂版 岩波書店
- (3)新潟県1/3万道路地図 昭文社



当寺院は、四徳の佛徳寺町指定の文化財として、保存をしております。

拝観のお願い

一 拝観を希望されます方は、寺院に申出てください。

二 土曜日は、境内を歩かぬでください。(災害の使用を禁止してあります。)

三 週に降った状態の方は、お断りします。

四 飲み物やタバコ、不衛生なものはお断りします。

五 施設や、樹木等を壊したり、傷つけたりしないでください。

大潟町教育委員会
吉岡宗
蜘蛛山瑞天寺

蜘蛛山瑞天寺

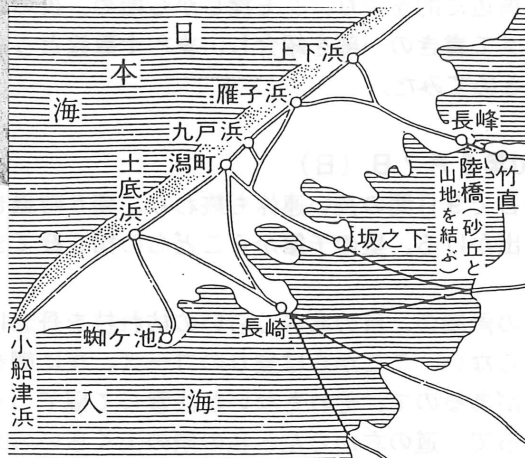


図1：郷土の大昔を想像した交通図。この地は開拓前、図のような入り江（入海）であった。そのころから池であったかどうかは定かでない。



図2：現在の蜘蛛ヶ池付近。すぐ北の寺が瑞天寺である。

ゲホウグモの網採り奮戦記

船曳和代

私の2000年の目標の一つは“ゲホウグモの網をとること”であった。

このクモは、止まっていると木の瘤そっくりな形でなかなか発見しにくい。それに網は夜遅くから張り始め明け方には曇ってしまうため、昼間に見つけることは不可能である。網を採るには、まずクモを知ることから始めなければならない。そこで私は、ゲホウグモの観察日記を書いておられる名古屋の石井幸子さんに、手紙や電話でこのクモの生態をお聞きした。それによるとクモがいるのは、日がよく当たり枯れ枝がある木（クモは枯れ枝にいる）、だいたい高さは150cm～200cm位の所。網を張る場所は人の出入りがあり夜でも少し明るいような所、網を張り始めるのは日没後だいたい1時間半くらいとのこと。私はこれをもとに、採集記録があり家からも近い青山の星の子館周辺に的を絞り、クモ探しから始め、夜の山に網を求めて何度も通った。以下にそのメモ書きの一部を紹介し、また十数枚とった失敗作や成功作品から分かったことをまとめてみた。

2000年5月7日（日）

今日で9日間の長い連休も終わり。朝6時過ぎ起床。すぐに青山へゲホウグモを探しに出かける。星の子館からこどもの館を経てまた星の子館へ戻ってくるコースを歩く。

道の両端の、目の高さくらいの枯れ枝を丹念に見ながら歩く。こどもの館までは見つからない。ここからは登りのコース。夜に網を張るクモは、昼間橋糸を残していることがあるので、それもないか注意して観ていく。登りから下りに変わり少し行ったところで、道の右から左へ私の頭の上くらいの高さに一本の糸が残っている。かなり太いもので何グモかの橋糸のように見える。そこで糸の両端を注意深く観ていった。いたいた、ゲホウグモが枯れ枝の一部になって止まっていた。やったあ！ついにみつけた。今晚夫と一緒に来よう。クモのいる位置をしっかりと記憶して山を下りた。

夕方より夜にかけて激しい雨。今日は採集をあきらめる。

2000年5月8日（月）

夜10時前より夫と一緒に青山へ。閉鎖されている駐車場の入り口に車を止める。星の子館の西側階段を上り右に折れると短い木の橋がある。懐中電灯で前方の上下左右を照らしながらゆっくり網を探していく。橋の中程あたりで空中に白く浮かぶ網発見、横糸の木目の細かさからゲホウグモの網と直感する。橋をまたいで引かれた橋糸は、暗くてよく分からないが数メートル以上はありそうだ。網の前後左右に障害物なし。高さも私の頭の上くらいで採りやすい位置。しかし網にはすでに蛾がかかったようで右下が大きく破れている。クモは、中央で食事中。残念。

網を壊さないように下をくぐり進む。星の子館に沿って北に進むと建物の裏に出る。

そこからは山道を登る。100メートルほど上り右に折れ少し行くと休憩所がある。過ぎてすぐ重なるようにして張られている網発見、そして5メートルほど先にも一つ。高さは1~2メートル、いずれも道の中央付近で採りやすい位置。しかしすべてに獲物がかかっており網は大きく破れている。少し時間が遅かったようだ。だいたいの状況が分かったので今日はこれで帰り、明日また出直すことにする。

2000年5月9日(火)

食事を終え午後8時、いよいよ時きたれりと出ていく。今日は一人。頭上には三日月が明るく輝いている。星の子館は開館しているらしく電気がついて明るい。今日も網がないか探しながら木の橋を渡る。いたいた、昨日とほぼ同じ所、縦糸を忙しく張っている最中、まだ大分かかりそうだ。下をくぐって次の所へ。でもこちらはまだ止まり木から出てきた所のようなのだ。二つの網が重なるようにして見られたところもごく初期状態。まだ1時間半はかかるだろう。家へ帰って出直しである。

午後10時頃再び山へ。橋の上のクモは美しいほれほれするような網を完成していた。しかし少し高い。そのままにして上へ登る。2匹が同じような所に網を張っていたクモは、両方とも網を完成させていた。しかし破れて汚い。それに形もいびつ、網はとれない。再び下へ。橋の上のものをどうしてもとらなければ。何か台になるようなないか、建物の裏を探していたら砂場にバケツがあった。裏を向けて置けば台になりそうだ。一つ下げて橋の所へ。上に乗るとどうにか届きそうだ。網は少し傾いている。クモは手でふれるとすぐに斜め左上に逃げ、粹糸の端に止まっている。大きな網で全紙サイズの紙からもはみ出してしまふ。傾きにあわせて紙に付けようとするが、なかなかうまくいかない。橋糸にあたる部分が結構強く、手を伸ばしきっているのでもうまく切れない。結局上部が崩れてしまった。下3分の2はまあまあ、やはりもう一度挑戦する必要があるようだ。帰宅、11時前。

2000年5月10日(水)

一昨夜、昨夜の経験から9時過ぎを網の完成時間と判断、9時前に家を出る。風が強い。ケヤキやサクラの木がごうごうと揺れている。止めた方がいいのか、でも今日こそ網を採るチャンスではないかという気持ちが強く出かける。月は朧。星の子館は宿泊客がないのか明かりが消えている。風は家の近所ほど強くはない。曇っているせいかよけい暗く感じる。山が魔物のように立ち上がってくるようで怖い。

橋の上に網なし。駆けるようにして一気に山道を登り2匹がいつも網を張っている所へ。あった！一つはすでに完成している。これは高すぎて採れない。もう一つは中心部分に差し掛かっているものの、まだ横糸をつけている最中。こちらはかろうじて届きそうだ。待つことにする。

見ているとクモは大きな体を重そうに運びながら、1ミリ位の間隔で糸を付けていく。カチッ、カチッ、カチッ、暗闇の中でまるで時を刻むような正確さだ。待っている私は、なかなか埋まらない中心部分に「もうこの辺で終わりにしては」と声をかけたくなる。

10分ほどしてやっと横糸を付け終えたクモは、中心へ帰り素早くあたりの糸を取り除き、プツプツとお尻をつけるようにして新しいこしきを作った。そして気持ちよさそうにうのびのびと足を伸ばして逆さに止まった。

完成された網は、つやつやと光沢があり瑞々しい。まるで水飴を細く伸ばしたよう。でも白く光る部分とほぼ透明に見える部分がある。光の加減か。またゲホウグモの網は普通垂直に張られることが多いが、この網はほぼ水平。クモの重みで中心部分が下にたわむせいか、唐傘のような形になっていて美しい。いつまでも見ていたい気持ち。しかしそうしておれない、採ることにする。クモは手で掴むと都合良く糸を離してくれた。下からすくい取るには高すぎる。上からかぶせるようにして採る。暗くて糸がどのようにのびているのかよく分からない。採れた網はぶれていてもとの美しさの10分の1もない。失敗。再挑戦を期して帰る。

2000年5月12日（金）

夜8時半頃家を出る。今日は夫と一緒に。何もしてくれないがいてくれるだけで安心。9日に網を採った橋の上を念のため懐中電灯で照らしてみる。いない、と思っていたのに前よりも上の方に網は完成していた。きれいだが脚立でもないととれない。

2匹のクモが網を張っていたところへ。同じ枠糸を共有して二つの網が並べてはられていた。どちらの網にもクモはいない。一つの方は横糸がポロポロになっていて昨夜張られたものようだ。昨夜は少し雨が降ったので網を畳まなかったのか。網にはアシナガグモと見られるクモが侵入していた。

もう一つの方は今夜張られたものようだが汚い。この網の近くの枠糸にもアシナガグモがいて、ゲホウグモはこれをさけて網を出た模様。クモは止まり木の近くにいた。

少し行った所には太い糸が道をまたいで引かれていた。網はないが糸をたどって行くとゲホウグモがいた。これから網を張る模様。中心点が私の腰あたりで網を張ってくれば採りやすい位置。しかし待つとかなり時間がかかる。夫は待てばよいと言う。そして休憩小屋でごろりと横になってしまった。私はそのあたりを観察して待つことにする。10分余りしてクモを見に行ったがまったく動いていない。仕方がないのであきらめて下りることにする。

橋の上の網は虫もかかっていずきれいなまま。一旦家へ帰り脚立を持ってきてとることにする。往復二十数分かけて脚立を持ってきて網の下に置いた。網の位置は高く、最上段に上ってやっとまともに届く位置。高所恐怖症気味の私は最上段まで上れず採ったことは採ったが上部が崩れてしまった。ため息が出そう。上のクモはまだ同じ所でじっとしていた。

2000年5月14日（日）

今日も山へ行きたいと夫に電話するが忙しくて帰りは遅くなるとのこと。仕方がないので私一人で行くことにする。8時半出発。曇り、風あり。売り出しの旗がパタパタと風にはためいている。夜の山行きも5日目とかなり度胸が据わってくる。

橋の所に網なし。星の子館には明かりがついていてフロントに男性が一人座っている。横を通って山道へ。館では親子ずれの客が卓球をしているらしく人影が見え歓声が聞こえる。向こうからも私が見えるだろう。ゆっくり足を踏みしめながら上る。網が二つ並べて作られていた所へ。今日は横糸を半分くらいつけかけた網一つ。少し高いが念のためにと砂場からバケツを二つ下げてきたのでこれがあれば届くだろう。しかしまだかなりかかりそうだ。12日に網を張りそうだったところへ。いない、場所を

替えたらしい。こうなれば網の完成を待つしかない。でもかなりかかりそうで山の中で待つ勇氣はない。車に帰りイライラしながら待つ。

20分ほどして再び網の所へ。館内の親子連れは部屋へ帰ったのかいなくなっていて、こころなしあたりがシーンとしている。足早に網の所へ。張り終わっていた。30度ばかり傾いた網。手を伸ばしたが高い。バケツを踏み台にしてクモを除きにかかる。手を触れると威嚇するように足をグッと踏ん張って伸ばす。それを掴もうとするとパッと糸を引いて下へさがった。下へ落ちたかと、糸を切ろうとしたが、網に目を戻すとクモは中央へ帰っていた。目にもとまらぬ早さで20センチばかり下がり、また元に戻ったらしい。再度クモの体に手を触れ、パッと下に下がったところを掴み捕らえる。手を噛んできたがあまり痛くない。クモがすんなりとれたので気をよくし、ラッカーをまんべんなくかけた。下側から紙をあてようとするが上部が届かない。反対側に回りとることにする。坂道のため上に回ると届きやすくなった。縦に紙を持っていったがうまくいかず、横にして採った。ヤッター、まあまあ、これでゲホウグモの網とりから解放される。道具をまとめ、採った網に木や葉が接触しないように気を付け一気に車の所まで下りる。帰って改めてみると、横糸同士がくっついてあまりきれいでない。

この10日間に採った4枚の網を並べてみると、どれもが不完全。やはりもう一度行く必要がありそうだ。でも少し休憩。

2000年7月6日(木)

9時頃より久しぶりに夜間の網採集に行く。ゲホウグモの子グモが小さな網を張っていないか見に行ったのである。そしてトリノフンダマシ類の網もそろそろ現れる頃ではないかと思っていた。階段を上る途中、茂みを照らしていたライトがトリノフンダマシの網らしきものを捉えた。シロオビのようだ。網の横糸は外側2本くらいしかない。直径40~50センチもあろうかと思われる大きな網。採ろうとしたが足場が悪く少し高すぎたので失敗。

今、夜の山はワキグロサツマノミダマシの天下のようだ。あちこちたくさん網を張っている。以前ゲホウグモが張っていた山道の中央あたりに張っているものもある。オニグモも大きな網を張っていた。茂みの中に10センチ位の木目の細かい網を張っているクモがいた。ゲホウの子グモかと採集して帰ったが違っていた。

トリノフンダマシ類の網はあと二つ見られた。いずれもアカイトトリノフンダマシのものであったが糸が弱く、うまく採れなかった。

2000年8月24日(木)

8時頃から夜間の網採集へ。何日も雨が降っていないので木や草は元気がない。ジョロウグモの破れの日立つ網が懐中電灯の光の中に浮かび上がってくる。もう成体になっているようなものもある。光が、上へ真っ直ぐ伸びている糸を捉えた。枠糸の一部かと光を下から上へ移動させて網を探す。3~4メートルの所に40センチくらいの網発見。横糸の間隔も結構狭い。すわっ!ゲホウか、まだこんな大きな網を張る個体がいたのか。よく見るとワキグロサツマノミダマシのよう。そうだろう、そうだろう、今頃こんな大きな網を張るゲホウがいるはずがない。

ナガコガネグモがいる。コガタコガネグモもたくさんいる。X状の隠れ帯が夜目に

もくっきりと見える。

いつもゲホウグモの網をみついていた辺りで20センチくらいの木目の細かい網発見。山道の中央辺りにポカッと空中に浮かんでいる。ゲホウグモのようだ。やっと見つけた。私の顔くらいの高さ。早速採る。横糸の間隔がきわめて狭く、糸も弱々しくラッカーをかけると横糸同士がくっついてしまいきれいでない。縦長のサガオニグモの網とよく似ていて普通のかんじ。大きすぎると採りにくいし、小さいと平凡なものになってしまう。あ～あ難しい。

1時間あまりいたが、ゲホウグモの網はこれ一つしか見つけれなかった。

2000年9月27日(水)

恋いこがれていたゲホウグモの網をほぼ完璧な形でついに手に入れることができた。

午後7時40分家を出た。この前の山行きで男性に会っていたので、夫に電話したが忙しいとのことで一人である。天気もいいし風もない、絶好の網採り日である。このチャンスを逃しては、との気持ちで家を出た。

男性がいたら引き返そうと、この前居たところを注意しながら上っていった。今日はいない。ホッとして網を探す。

木の橋を渡る。ここは5月に大きな網が見られたところだ。ここ2回ばかりはなかった。ないと思って進んでいたら突然、大きな網が目の前に現れた。高さも私の顔くらいでちょうどよい。しかし大きい。今日はそんなに大きな網はないだろうと思って半切のものしか持ってきていない。どうしようか。一度家へかえろうか。しかしその間に餌がかかって網が破れてしまっは無駄になる。とりあえずクモを除いておくことにする。これに失敗すれば紙を取りに帰っても意味がない。クモに軽く手を触れるといつものように威嚇するように足を踏ん張りグッと伸ばす。なおつつくとつつと糸に引いて下がってきた。すかさずクモを掴む。掴めない時もあるが今日はうまく掴めた。糸を切り下に落とす。破れていず、クモもない美しい網。紙を取りに帰ることにする。

二十数分かけて帰りまた戻ってくる。再び橋の上へ行き記憶していた所を照らす。網がない、何度も辺りを行き来しながら探すがない。その時頭に糸のようなものが触れ、光の中を流れていく長い糸がキラリと光った。頭で網を壊してしまったか？またうっかりミスをやってしまったか。しかし頭をさわって見たが網を引っかけたようがない。半ばあきらめて2～3メートルすすむ。あつた！あつた！ホッとする。

まんべんなく網に白いラッカーを掛ける。横糸がくっつかないように、でも糸がハッキリ出るように、何度も遠くからかける。枠糸の部分は少し近くからかける。それから持ってきた紙を取りだし糊を塗ろうとしてまた失敗、糊を忘れてきたのだ。また取りに帰るのはエネルギー不足で、もういい加減にしてほしいという気持ち。そこでクリアラッカーを紙に糊のようにべとつくほどかけ、とることにする。注意深く紙を網に近づけ、両面テープを付けているぐるりに糸をくつけるようにして採る。このクモがここに網を張ったのは今日がはじめなのか、橋糸も強くなくスムーズに切れてくれた。

ほぼ完璧に近い形で採れた。糸の白さもかなりはっきりしている。これならまず95点はつけられる。ホッとすると同時に嬉しさがこみ上げてきた。これで小さいものが

採れば、もうこのクモの網を採るのは今年は終わりにしても良いと思う。

今日は一つ美しいあみがとれたことだし、これで大満足して帰ってきた。帰ってきて網を見ながらおいしいコーヒーを飲んだ。

以上私の日記ふうのメモから、ゲホウグモの網採りの模様を抜粋した。この9日間を含めて山へ通ったのは20日にも及ぶ。そしてこの間採った網で残っているものは、15枚である。以下にその網から分かったことを記してみた。

最後にゲホウグモの生態について、親切に教えて頂いた石井幸子さんに厚くお礼申しあげます。

採集月日	縦糸の数	横糸の数	網の縦径 (cm)	網の横径 (cm)	1cm当本数
5月9日	30	88	44	40	5~7
5月10日	30	95	44	42	5~7
5月12日	29	84	48	43	4~6
5月14日	29	67	41	36	3~6
5月23日	32	89	45	37	4~7
8月24日	37	100以上	17	13	約14
9月17日	40	105	24	25	8~12
9月17日	41	113	26	21	約13
9月17日	41	103	24	24	約12
9月21日	38	118	29	23	4~10
9月21日	38	132	36	29	7~11
9月27日	33	104	33	29	6~9
10月5日	31	103	32	29	3~11
10月5日	35	130	24	20	8~13
10月24日	34	93	23	19	4~12

※ 採集年はすべて2000年である。

※ 網の縦径、横径は、横糸のついている間をはかった。少しいびつになってしまった網もあるので、1~2cmの誤差はある。

※ 1cm当たりの横糸の本数は、荒い所と密な所を数えた。(横糸は均等についでいるわけではなく、外側上部の荒い網が比較的多かった。) 尚小さな網は非常に密で、横糸がくっついて正確に数えられない箇所があり、数本の誤差がある。

参考資料：新海明 ゲホウグモの円網の記録
石井幸子 ゲホウグモ観察日記

2000年秋のゴケグモ情報

清水裕行

2000年10月から11月にかけて、西日本でゴケグモ類2種の発見が新聞各紙によって報道されました。山口県岩国市では日本で初めてクロゴケグモが捕獲されたので、全国的に報道された様子ですが、兵庫県のセアカゴケグモは1995年の延長という認識だったのか、阪神地方を中心に比較的小さく扱われていました。私はセアカゴケグモ発見の地元、芦屋市に住んでいる関係上特に後者の記事を多く入手できましたので、これらの事情をお知らせします。

1. 岩国市のクロゴケグモ

10月21日付の朝日新聞朝刊にアメリカ合衆国海兵隊岩国航空基地でクロゴケグモ60個体が発見されたと報じられました。他の一般紙は同日夕刊以降、朝日系列の日刊スポーツ以外のスポーツ紙は22日以降にこの事件を扱ったところを見ると、これは朝日のスクープではないかと思われます。しかし、情報はすべて公的機関発表によるものですから、他の新聞社が気付かなかったというのは不自然です。朝日が特に締切が遅いわけではないようですから、やはり関係者の関心度の問題でしょうか。なお、この種の事件に敏感な夕刊紙の記事は今回は兵庫県の事件を含めて確認できませんでした。

これを受けて、山口県と岩国市は21日に基地周辺を調査し、13個体を捕獲したと発表しました。この他に、市民が1個体を届出したそうです。面白いことに、22日になって初めて報じた各紙がこれらをひとつのきじとして発表した対し、前日の夕刊までに基地内の事件を報じた朝日他の各紙は続報の方を扱っておりませんでした。どうやらこの時点でこれはローカル事件となったようです。結局、私が確認した限りでは2度にわたって報道したのは日刊スポーツだけでした。

2. 西宮市のセアカゴケグモ

クロゴケグモの記事が載ったのと同じ10月21日に、今度は兵庫県西宮市の人工島、「西宮浜」の団地内からセアカゴケグモが発見されました。女性の声で西宮警察署に通報があり、クモ1匹をパトロールで無人だった派出所に置いたとのことでした。西宮市による調査の結果、23日に5個体、24日に約230個体を発見し、さらに29日までに合計で約520個体と卵囊420個を駆除したと発表しました。市によるとクモが発見されたのは人工島のなかでも団地と西宮浜小学校を含む西宮浜4丁目に限られたことから、(ブルーニングによって対岸の大阪府から移動したのではなく)建築資材等に付着して来たものと判断して30日に収束宣言を出しました。この間、西宮市は西宮浜の住民に注意を促すちらしを配りました。

私は市による本格的な調査が始まる前の22日(日曜日)に西宮浜に行ってみましたが、夜になって到着したせいもあって採集することはできませんでした。ただ、そこで出会った女性(最初の通報者とは別人)のお話では「前日に子供達と一緒に小学校の校庭で草取りをしていた時に、ひとりがおなかの赤いクモをみつけた。先生に届ける

ように勤めたが、気味悪がって放置していた」とのことでした。形状からもその後の経過から考えても、それがセアカゴケグモだったと思われます。

西宮市で本種が確認されたのは、実は2回目で、1997年に兵庫県の定期調査の際に内陸部の造成地、東山台で発見されています。見つかったのは1個体だけだったので、偶発的な移動で定着したものではないと判断されました。同時期に西宮浜からも通報がありましたが、標本は得られなかったそうです。

なお、阪神地方の公的機関提供の情報の方は各紙が横並びで報道していました。

3. 神戸市のセアカゴケグモ

岩国・西宮両市での発見の後で、芋蔓式というクモの糸に引き寄せられたというか、阪神間の各地からセアカゴケグモに関する情報が入りました。神戸市では西宮市での発見を受けて、10月26日から調査した結果、中央区脇浜海岸通の公園で、31日までに43個体を捕獲したと発表しました。さらに、翌11月1日には141個体と卵囊48個が捕獲されました。神戸市も付近住民に注意を促すちらしを配りました。新聞記事としては、西宮市の終息宣言が報道された翌日に神戸市の第1報が入ったわけです（配信された地域は阪神と神戸で異なりますが）。

4. 芦屋市

兵庫県は11月6日から10日にかけて県内一斉調査を実施し、芦屋市内では13ヵ所を調査した結果、市南部の人工島「南芦屋浜」(涼風町)でメス2個体と卵囊12個を捕獲したと発表しました。県と芦屋市は調査を続け、16日までにさらに108個体と卵囊187個を捕獲しました。芦屋市は広報で市民の注意を促しました。

5. 尼崎市での調査結果

尼崎市内でも同市保健所が10月25日から11月10日にかけて、職員36人を動員して40ヵ所を調査しましたが、セアカゴケグモの成体も卵囊も確認されなかったそうです。

6. まとめ

以上、現在までに私がかんだ情報を紹介しました。まだ未確認の新聞記事もあると思いますので、入手したらまた報告します。各自治体の広報や警告のチラシなども探してみるつもりです。阪神地方の情報はほとんどが地方版か特定の版の社会面に掲載されたので、他の地域にはあまり伝わっていない様子です。各地でどのように扱われたか知りたいものです。クロゴケグモについてもお膝元の山口県や他の地域ではどのように報道されたか興味があります。また、東海地方その他で関西では報じられなかった記事がでているのかもしれませんが。これらも含めて、新聞記事をお持ちの方は御一報下されば幸いです。情報を御提供下さる際には、紙名・本社名・版(注)が付記されているとさらに有益です。

1995年に国内で初めてセアカゴケグモが発見されたときには全国的に大騒ぎで、新聞紙上では連日報道され、日本の近代新聞が始まって以来掲載されたクモ関連のすべての記事のトータルに数倍する量の記事が記録された観がありました。それに比べると、今回の一連の事件に対する反応は覚めたもので、大袈裟な報道をしがちな夕刊紙は「セアカゴケグモを上回る超毒グモ日本に上陸!」と騒ぐどころか、私の知る限りでは1片の記事も出しませんでした。そういえば、以前、関西国際空港で発見されたときには、国内で初めて被害が出たのにもかかわらず、扱いは小さなものでした。

日本蜘蛛学会に対する情報集中がなかったのも気になるところです。95年のときには西川喜朗会長(当時)を始めマスコミにひっぱり尻で、学会の存在は認識されたはずですが、「クモのことならまず日本蜘蛛学会に」という認識までは定着しなかったようです。報道範囲がローカルだったので、取材関係も各紙本社～学会本部にまで上がってこなかったのかもしれませんが、「クロゴケグモ」に関しては山口県在住の学会会員啓一さんに照会があったそうです。阪神地方で「クモの研究者」として活躍したのは大阪府立公衆衛生研究所主任研究員の吉田政弘氏で、西宮浜での調査にも参加しました。

新聞記事は学術雑誌と比べると把握が難しく、時期を逸すると記事の存在さえも確認に苦労するようになります。また、地域によって扱いが異なるので、一部の記事だけを見ては正確な情報を把握できません。このような時こそ蜘蛛学会のネットワークを活かして各地の記事を学会本部に集中して、情報の保管に努めるべきではないでしょうか。私も、今回の情報収集が一段落した時点で、記事のコピーや現物を学会に寄贈する予定です。95年以来のものについてもできるだけ早い機会に追加したいと思っております。

7. 課題

新聞記事を蒐集してわかったこと、疑問に思ったことを述べて、今回の報告を締めたいと思います。

(1) 「クロゴケグモ」の正体

岩国でみつかったクモが本当のクロゴケグモであったか、その結果は手元に集まった記事(すべて阪神地域に配布されたもの)ではわかりませんでした。新聞記事の2, 4, 5(後述)にはまぎれもないクロゴケグモの写真が載っていますが、これは『原色図鑑野外の害虫と不快な虫』(全国農村教育協会発行)からの転載です(2の日刊スポーツでは写真が逆さまになっていました)。6, 7, 9には岩国基地周辺で捕獲されたクモの写真がありますが、新聞を見た限りでは真偽はわかりません。写真の説明も「クロゴケグモとみられるクモ」となっています。

基地内にはアメリカ合衆国本国から物資が直接空輸されますから、クロゴケグモが移入される可能性は大いにあります。基地内でみつかったのが本物のクロゴケグモでも、基地外のものが同種であるとは決めつけられません。(Ⅱ)基地内で発見されたクモ、(Ⅲ)最初に新聞に掲載された写真、(Ⅳ)その後、基地周辺で捕獲されたクモ、以上3者は情報処理上分けて扱われるべきでしょう。

(2) クロゴケグモの毒の威力

新聞の中には「クロゴケグモはセアカゴケグモに比べて毒性ははるかに強く、国内には血清がない。性質も獷猛である」と書かれているものがありました。両者は同種の中の別亜種として扱われることが多いですが、毒性や性質にそれほど大きな差があるものでしょうか(注)。「アメリカではオーストラリアに比べて被害が多いので、そのように考えられたのではないか」という意見も聞きました。「最強のドクグモ現る」という報道は、格闘技漫画でやっとのことで強敵を倒すと、すぐにそれを遥かに上回る敵が現れるパターンを思い出します。クモの毒性に詳しい方の御教授をお願いしたいものです。山口県では10月22日以降も続報が出ている可能性があるため、そちらの

記事も見ればよいのですが。

(注) セアカゴケグモの毒性については、1995年から1996年にかけての報道の加熱をオーストラリアの学者に笑われてから、一転して過小評価に移ったほうが問題です。関西国際空港で被害が出たように、決して油断はできません。幸い国内でも血清が備えられるようになりましたので、かまれたときには最寄りの保健所に知らせればよいそうです。

(追記) 2000年12月10日の関西クモ研究会例会に、一連の新聞記事を集めたスクラップブックを持参し公開したところ、予想外の反響を呼び、質問・意見は同時に発表した「兵庫県産クモ目録」の概要説明に対する反応を上回りました。中部地方や東京からの参加者からは「岩国の事件は新聞やホームページで知っていたが、阪神地方のことは今日初めて知った」という人もありました。

[資料]

これまでに入手した新聞等の記事を列挙します。なお、新聞名の後のカッコ内は本社を示します。12月10日に公開した資料に若干の追加があります。

【岩国市の情報】

1. 朝日新聞 (大阪), 2000.10.21, p.34(13版, 14版; 内容はほぼ同じ).
2. 日刊スポーツ, 2000.10.21, p.29(13版).
3. 毎日新聞 (大阪), 2000.10.21, p.8(夕刊3版).
4. 神戸新聞, 2000.10.21, p.11(夕刊5版).
5. 大阪スポーツ, 2000.10.22, p.23(B版). [21日に販売]
6. 日本経済新聞 (大阪), 2000.10.22, p.39(13版).
7. スポーツ報知 (大阪), 2000.10.22, p.23(7版).
8. サンケイスポーツ, 2000.10.22, p.23(10版, 12版).
9. デイリースポーツ (大阪), 2000.10.22, p.23(12版).
10. 日刊スポーツ, 2000.10.22, p.29(13版).

(注) 2, 4, 5には『原色図鑑野外の害虫と不快な虫』から転載した写真(神戸はカラー。日刊は逆さになっていました), 6, 7, 9には21日に捕獲されたクモの写真があります。

【西宮市の情報】

1. 朝日新聞 (大阪), 2000.10.22, p.33(阪神版).
2. 読売新聞 (大阪), 2000.10.22, p.31(14版).
3. 毎日新聞 (大阪), 2000.10.22, p.23(阪神版).
3. 産経新聞 (大阪), 2000.10.22, p.22(阪神版).
4. 日本経済新聞 (大阪), 2000.10.22, p.39(13版). [「クロゴケグモ」と同時に報道]
5. 神戸新聞, 2000.10.22, p.29(15版).
6. 日刊スポーツ, 2000.10.22, p.29(13版). [「クロゴケグモ」と同時に報道]
7. デイリースポーツ (大阪), 2000.10.22, p.23(12版). [「クロゴケグモ」と同時に報道]
8. 朝日新聞 (大阪), 2000.10.24, p.27(阪神版).
9. 読売新聞 (大阪), 2000.10.24, p.33(阪神版).

10. 毎日新聞 (大阪), 2000.10.24, p.23(阪神版).
11. 産経新聞 (大阪), 2000.10.24, p.22(阪神版).
12. 神戸新聞, 2000.10.24, p.28(14版).
13. 朝日新聞 (大阪), 2000.10.25, p.31(14版).
14. 毎日新聞 (大阪), 2000.10.25, p.28(14版).
15. 産経新聞 (大阪), 2000.10.25, p.24(阪神版).
16. 神戸新聞, 2000.10.25, p.29(15版).
17. 日刊スポーツ, 2000.10.25, p.24(13版).
18. スポーツ報知 (大阪), 2000.10.25, p.19(7版).
19. サンケイスポーツ, 2000.10.25, p.27(12版).
20. スポーツニッポン (大阪), 2000.10.25, p.25(12版).
21. 朝日新聞 (大阪), 2000.10.31, p.34(14版).
22. 読売新聞 (大阪), 2000.10.31, p.28(阪神版).
23. 毎日新聞 (大阪), 2000.10.31, p.23(阪神版).
24. 産経新聞 (大阪), 2000.10.31, p.26(阪神版).
25. 神戸新聞, 2000.10.31, p.22(阪神版).

【神戸市の情報】

1. 朝日新聞 (大阪), 2000.11.1, p.35(13版).
2. 読売新聞 (大阪), 2000.11.1, p.30(13版,14版;内容は同じ).
3. 毎日新聞 (大阪), 2000.11.1, p.25(広域版).
4. 産経新聞 (大阪), 2000.11.1, p.27(14版).
5. 神戸新聞, 2000.11.1, p.29(15版).
6. 朝日新聞 (大阪), 2000.11.2, p.31(神戸版).
7. 読売新聞 (大阪), 2000.11.2, p.38(13版,14版;内容は同じ).
8. 毎日新聞 (大阪), 2000.11.2, p.27(神戸版).
9. 産経新聞 (大阪), 2000.11.2, p.26(神戸版).
10. 神戸新聞, 2000.11.2, p.31(14版,15版;内容は同じ).

【芦屋市の情報】

1. 朝日新聞 (大阪), 2000.11.11, p.31(阪神版).
2. 読売新聞 (大阪), 2000.11.11, p.31(阪神版).
3. 毎日新聞 (大阪), 2000.11.11, p.23(阪神版).
4. 産経新聞 (大阪), 2000.11.11, p.20(阪神版).
5. 神戸新聞, 2000.11.11, p.22(阪神版).
6. 朝日新聞 (大阪), 2000.11.17, p.31(阪神版).
7. 毎日新聞 (大阪), 2000.11.17, p.23(阪神版).
8. 産経新聞 (大阪), 2000.11.17, p.24(阪神版).
9. 神戸新聞, 2000.11.17, p.20(阪神版).
10. 広報あしや, 2000.12.1, p.1.

【尼崎市の情報】

1. 朝日新聞 (大阪), 2000.11.22, p.35(阪神版).

2. 毎日新聞 (大阪), 2000.11.22, p.25(阪神版).
3. 産経新聞 (大阪), 2000.11.22, p.22(阪神版).
4. 神戸新聞, 2000.11.22, p.22(阪神版).

(注) 新聞の本社・版・号について

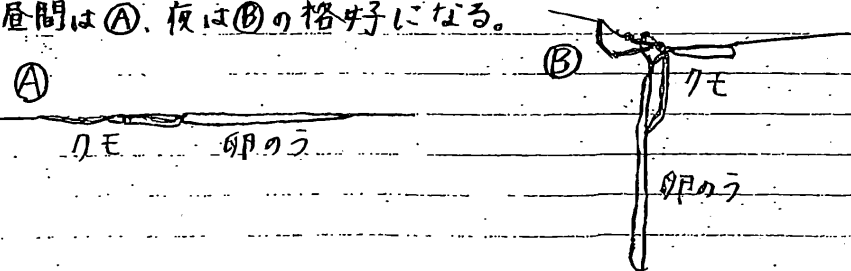
全国紙のほとんどは複数本社制をとっています。朝日新聞の場合は大阪本社・東京本社・西日本本社で構成され、他紙もほぼ同様です。各本社が独自に紙面を作りますから、同じ新聞社の同日の紙面でも大阪本社と東京本社のものでは内容が異なっております。同じ新聞ですから情報を共有した共通の記事はありますし、連載小説や4コマ漫画などは同じなのが普通です。また、印刷の関係から本社から離れている地域ほど早く締め切った版を配布し、本社周辺に配布される最終版には最も新しい記事が掲載されます。これはスポーツ紙や1府県を読者対象とする地方紙でも同様ですし、夕刊紙の場合は早版と遅版の2つだけのところが多く、A版とB版としている新聞もあります。ちなみに、朝日新聞の縮刷版には東京本社の最終版が使用されています。版が改まるごとに新鮮さを失った記事は中心的な位置から外れたり、内容が省略されて小さくなったり消滅したりします。10月21日の朝日(大阪)のクロゴケグモの記事を13版と14版で比べてみると、内容は全く同じですが、13版では頁の下の位置にあり、最下段が離れたところに飛んでいるのに対し、14版では最上段に移って、構成も長方形に近くなっています。地域の情報を掲載する頁として地方版があり、ローカルな事件もここに載ることがあります。また、社会面でも特定の版にのみ載せられることもあります。神戸の情報は朝日の場合、第1報が阪神間では明石市と神戸市に配布される13版、続報が神戸版にのみ掲載されたので、両方の記事を読むことができたのはこの事件に最も関連があるであろう神戸市民等でした。従って、14版(芦屋市以東、大阪市まで)と阪神版の読者である私はみつけるのが遅れた次第です。読売は続報を13と14の両版にのせており、社によって姿勢の違いが見受けられます。

なお、新聞にも他の雑誌と同様に号数がありますが、これだけでは記事の特定ができません。同日発行の新聞は朝刊も夕刊も、版が違っていてもすべて号は一緒なので、同じ号(日付)の同じ頁でも同一の内容とは限らないわけです。スクラップを保存する際には、号数もわかればそれに越したことはありませんが、紙名(全国紙のばあいには本社も)・日付・頁と版または地方版名を付記すれば十分でしょう。論文の参考文献として書き出すときにはどのように記述したらよいのかは知りませんが、御存知の方がおられれば教えて下さい。

私は当面一般の雑誌の例に倣って、セアカゴケグモ芦屋市内でメス2匹発見。朝日新聞(大阪本社), ([42793=] 2000.11.11):31(阪神版)。注。[]内は省略可という形式を考えてみました。多少ごちゃごちゃしますが。

トピックTOPICトピック

大阪教育大学教育学部附属天王寺中学校の2年生、西野真由子さんが2000年度の日本学生科学賞で内閣総理大臣賞を受賞下さいました。研究のテーマは「クモの生活～マネキグモの不思議～」です。論文はB4のレポート150枚という力作だそうです。今回はこの論文の要約をご紹介します。

研究テーマ	クモの生活～マネキグモの不思議～
指導教官	廣瀬 明浩 先生
研究者	2年C組33番 西野 真由子
研究動機	ホ3の夏にマネキグモとその卵のうを知り、興味を持ち、調べようと思った。
マネキグモの卵のう作り	H7年～H11年までの5年間で、のべ29頭35個のマネキグモの卵のうを観察したが作り方を完全には観察できなかった。今年は庭で冬を越し、そのまま庭で観察した8頭と6月に紀見峠で採集し、飼育箱に入れて観察した8頭で観察・実験をした。
作り方	①3～7日縦糸を引かずにいたクモが細い縦糸を引く。 ②三角形の枠を作り、シート状にする。(約12分) ③上から下へ産卵(1分) ④下から上へ移動する時、シートを押し縮める。その後、卵のう部分を上下しながら糸をかける(10秒で25回)。10分もすると卵のう表面は薄茶色になる。 ⑤糸をかけ出して15分後、卵のうを固定していた下の糸をアゴで切る。 ⑥引き続き糸をかける。糸をかけ出して65分後、卵のう完成。
守り方	昼間は④、夜は⑥の格子になる。 
実験	5年間の観察でマネキグモの産卵時刻は日の出頃であることが分かったので人工的に昼と夜をずらして産卵時刻を変える試みをした。 結果: 実験した7頭中3頭で夕方～夜、3頭で8:30～9:00と自然の状態では産卵しない時刻に産卵した。

マネキグモの一生 マネキグモは6月末〜9月初旬、産卵後16〜27日で出のうする。産卵〜出のうまでの日数は気温に影響される。出のう後、12〜24時間でまどいから旅立ち、一頭で糸網(すだめ)を張って生活する。糸網は横糸と縦糸数本からなる「簡単な網」だが、粘着力は強い。この網にエサがつかるとすばやく糸を巻き、上ゴてくわえて横糸に戻り、食べる。マネキグモは子グモで冬を越すが、冬の間もたいてい網を張って生活している。春になってエサが増えると成長し、脱皮するようになる。5月になると交尾し、6〜8月に産卵して一生を終える。

マネキグモの日周活動 H7年からマネキグモを観察するうち、昼間はクモが糸網の端にいるのに、夜になると中央に出てきて(出勤と名付けた)、朝は反対に糸網の中央から端へ戻っていく(帰着と名付けた)という日周活動に気付いた。H8年11月からクモの出勤・帰着と日の入・日の出時刻、気温、湿度、天候、照度の関わりを調べた。出勤については、のべ2359頭、帰着についてはのべ1768頭を観察し、観察結果から考えた仮説を証明する実験もした。**日出・日の入** 出勤時刻は日の入に伴い、帰着時刻は日の出に伴い、一年間で変化した。人工的に日の入・日の出時刻を変えると、出勤・帰着時刻もそれに合わせて変化した。

気温 出勤・帰着に影響しなかった。

照度 観察でも実験でも10ルクス未満の明るさにクモが反応していることが分かった。

天候・湿度 観察では雨が影響を与えることが示されたが、実験ではうまくいかなかった。

今後の課題

1. 産卵時刻の実験で明るくする前に卵のう作りを始めたのはなぜなのだろう。何が卵のう作りのきっかけになっているのだろうか。
2. 24時間連続して暗い、または24時間連続して明るいとお勤・帰着はどうなるのだろうか。
3. 親グモが守りながら孵化しない卵のうがあるのはなぜだろう。

感想 マネキグモは地味なクモだが、その生活は不思議に満ちていた。しかし今まで少ないクモの参考文献にマネキグモに関する記載はほとんどなく、作りかえ分からぬ、枯れ枝そっくりの卵のう、謎に包まれた一生、規則正しい日周活動など、毎年と手探りして1つ1つ疑問を解明していった。観察も実験もうまくいかなかった時は「卵のう作りを見るのは無理かもれない」とさへ思ったが、今年もう一度観察をいねいに行うことについて卵のう作りを完全に観察することができ、うれしかった。

参考文献 写真日本クモ類大図鑑、フィールド図鑑クモ など

会員ニュース

例会報告

関西クモ研究会2000年度例会

2000年12月10日(日)に四天王寺高等学校(大阪市天王寺区)で、例会が開催された。

役員会

◆例会に先立って、役員会が開かれる。

出席者：山野忠清(会長)、牧野達也(会計)、吉田真(編集)、船曳和代(編集)

西川喜朗(顧問)

話し合われた主な内容は以下のとおり。

1) 会計

くものいと作製にかかった費用などの整理を進めている最中であり、会計報告は次回に行う予定である。

2) 今後の行事予定

採集会：2001年6月3日(日) 奈良県

2001年9月9日(日) 奈良県？

※具体的な採集地については種々検討し、会員の方々にお知らせする。

例会：2001年12月23日(日) 四天王寺高等学校にて

3) 「くものいと」の編集

29号の原稿が集まりつつある段階。1月に発行の予定。

4) 規約の作成について

関西クモ研究会は従来、規約がないために研究会名義の郵便口座が開けないという問題を抱えていた。また、会が規約をもたないことは不正常的なことであろう。そこで、加村氏と牧野氏が作製した案を検討し、一部修正のうえ、規約の制定を総会に提案することとした。

例会

◆午後1時より例会が開催された。

参加者：赤松史憲、池田幸二、池田勇介、座古禎三、清水裕行、西川喜朗、須賀瑛文、船曳和代、寺田孝重、徳本洋、新海明、榎元智子、吉田真、田中穂積、牧野達也、坂口佳史、山野忠清(計17名)

1) 関西クモ研究会会則(案)が出席者に諮られ、質問、討議の結果、満場一致で承認された(2000年12月10日制定：内容は〇〇ページに掲載)。

2) 役員を選出

制定された規約に基づき、以下の方々が役員候補として提案され、例会で承認された。

会長：山野忠清、庶務幹事：加村隆英、会計幹事：牧野達也、編集委員：吉田真・船

曳和代・榊元智子、顧問：西川喜朗（以上、留任）、会計監査：田中穂積（新任）

3) 講演発表

清水裕行：セアカゴケグモの報告

兵庫県のクモリストについて（くものいと30号に掲載予定）

新海明：スズミグモの分布拡大の記録

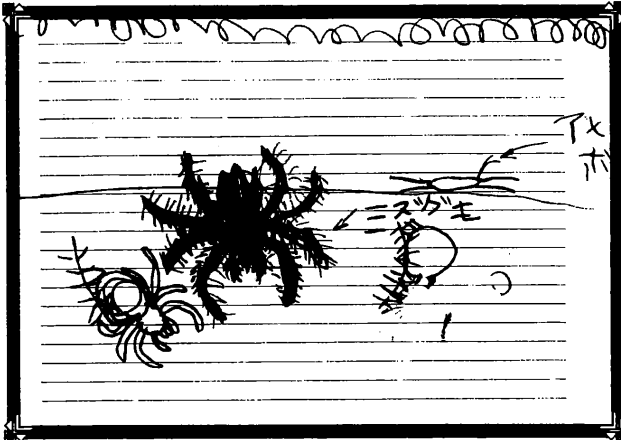
吉田真：20世紀のクモ本について

京都府産クモ目録

徳本洋：イソコモリグモに未来はあるか

今年も「関西クモ研究会」の例会を無事終えることができました。皆様ありがとうございました。

ゆうすけ美術館



池田勇介君が例会の間に書いてくれた作品です。



スズミグモ全国一斉調査にご協力ください。

最近、スズミグモの北上傾向が話題になっています。そこで、新海明氏がスズミグモの全国一斉調査を呼びかけておられます。

アンケート用紙をこの「くものいと」29号に挟み込んでおきます。アンケートの内容に従って書き込んでください。

簡単な調査ですので、みなさんどうぞご協力をお願いいたします。

編集後記

●29号は約80ページという分厚いものになり、またまた「くものいとページ記録」を更新した。「くものいと平成の大刷新」で体裁を一変した27号が54ページ、28号が66ページであったから、大幅の記録更新となる。編集部から原稿を依頼して書いていただいた皆さんと投稿していただいた会員の方々に深く感謝する。編集はすべて、榎元智子さんにやっていただいた。「大刷新」前までは私がやっていたので、編集作業がどれほど手間のかかるしんどい作業であるかは、よく分かる。しかも、私がやっていた頃の数倍の原稿があるわけだから、大変である。本当にご苦労様といたい。

シドニー五輪以来、日本の女子選手の活躍が目立つ。ちょっと計算してみたら、私が全力で走っても、高橋尚子や渋井陽子に100メートルしかついていけないことが分かった。ウーム、恐ろしい。榎元さんや船曳さんに後ろからつかれてよたよたと走る私であるが、何とか落後せずについていきたいとは思っている。(吉田)

●今冬は暖冬、との予報は見事にはずれて連日身も心も凍るような寒さが続いている。私が「くものいと」の編集に関わるようになってから3度目の発行である。少しなれてスムーズに発行にまでこぎつけられるはずであった。ところがこちらも大幅に狂ってしまった。その原因の大半は予定通り原稿が集まらなかったことにある。良い同好誌が発行できるかどうかは、中身のある原稿が、いかにたくさん集まるかどうかにかかっていると思う。そしてこれは、会員皆様一人一人の肩にかかっていると思う。今後、会員皆様のご協力を切にお願いします。(船曳)

●おかげさまで今回も結構なページ数になりました。投稿して下さる方が少しずつ増えていきます。こういう原稿を受け取る時は本当にうれしい気持ちになります。反対に、締切を過ぎてでもなしのつぶて、何回催促をしても原稿が来ない場合は「そんなに書くのイヤやったら、もう『くものいと』の発行なんかやめたらどやねん!」と、怒りまくってしまいます。会則もできたことだし、『くものいと』は会員みんなで作る会誌なのだということをよ〜く自覚して、みなさん、しっかり原稿を書いてくださいねっ。とにもかくにも終わりよければすべてよし。喉元過ぎれば熱さ忘れるタイプの私は、今回も執筆者のみなさんにひたすら感謝、感謝。(榎元)

〈関西クモ研究会〉 会長 山野忠清
編集 吉田 真
船曳和代
榎元智子
庶務 加村隆英
会計 牧野達也
顧問 西川喜朗

くものいと29号 発行年月日 2001年1月31日
発行 者 関西クモ研究会 (代表 山野忠清)
住 所 〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15
追手門学院大学 生物学研究室内
TEL: 0726-41-9550 (加村研)
